

令和6年9月定例会 まちづくり・魅力向上対策特別委員会（付託）

令和6年10月1日（火）

〔委員会の概要〕

岸本委員長

ただいまから、まちづくり・魅力向上対策特別委員会を開会いたします。（10時30分）

直ちに、議事に入ります。

本日の議題は、お手元の議事次第のとおりであります。

まず、理事者において、説明又は報告すべき事項があれば、これを受けたいと思います。

【報告事項】

○県都のまちづくりに向けた知事・市長会談について（資料1）

吉岡知事戦略公室長

知事戦略公室から、1点、御報告申し上げます。

資料1を御覧ください。

県都のまちづくりに向けた知事・市長会談についてでございます。お手元資料の説明に先立ちまして、会談実施の経緯について申し上げます。

去る9月10日、徳島市議会において遠藤市長から、市民が強く待ち望む新ホール整備を進めるため、県の責任ある対応案について早急な提示を求めたいとの意向を表明されたことを受けて、県議会9月定例会の開会日に、知事より、県都のまちづくりを加速していくため、近日中に、遠藤市長とのトップ会談を行い、具体的な協議を行いたい旨を表明したことから、早急に日程調整を行い、9月14日に両者の会談の場が設けられたところであります。

お手元資料に移りまして、1、目的であります。県都魅力度アップ推進ワーキンググループにおいて、県市の実務者同士で進めてまいりました協議を踏まえ、県都のまちづくりの方向性について意見交換を行うため、知事と徳島市長が会談をいたしました。

2、概要について、記載のとおり9月14日土曜日15時から、徳島グランヴィリオホテルにおいて会談を行いました。出席者は、知事、徳島市長のほかに、村上副知事、瀬尾第二副市長等が出席をいたしました。3、会談の内容についてでございますが、まず、県から徳島市に対し、県都のまちづくりに関する今後の取組方針について御説明申し上げ、知事、市長の両者が確認した上で、その内容について合意いたしました。

別紙を御覧ください。両方で合意をいたしました今後の取組方針について、その内容を御説明いたします。

まずは、一つ目の丸でございます。新ホール整備につきましては、県から提案しております、藍場浜公園西エリアにおける整備に向け、県市協調で進めるとの内容でございます。

次に、二つ目の丸でございます。県市協調新ホール整備に関する基本協定に基づき、これまで徳島市が担ってきました役割を考慮し、県市協調によるまちづくりの取組を加速さ

せる観点から、徳島市が今後実施するまちづくり事業を支援するため、県において、仮称ではございますが、県都のまちづくり推進基金を設置する、との内容でございます。

続いて、三つ目の丸でございます。

以上の二つを県市両者で進めていくため、その根拠となる県市基本協定等について所要の改定を行う、との内容でございます。

最後に、四つ目の丸でございます。

アリーナ整備や中央卸売市場の再整備など、広く県都のまちづくりを推進するため、引き続き県市が連携し取組を進める、との内容でございます。

そして最後に、これらの事項について、県議会、徳島市議会に対し、十分な説明を行い、県市協調の下、県都のまちづくりを推進するという今後の取組方針について、知事、徳島市長の両者で確認し、合意したところでございます。

知事戦略公室からの御報告は、以上でございます。御審議のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

岸本委員長

以上で報告は終わりました。

それでは、質疑をどうぞ。

眞貝委員

新ホールの整備について御質問させていただきたいと思います。

さきの総務委員会や経済委員会で、車両基地の移設と新ホールの建設地変更が玉突きではないのかと議論がありました。

もし、県と議会で考えに差があるのであれば、県は経緯をきちんと整理し、説明する必要があると思いますので、そこで何点かお聞きしたいと思います。

まず、昨年11月にグランドデザインを発表した際に、県はどのように説明したのか、端的に御説明ください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

眞貝委員より、昨年11月にグランドデザインを発表した際、県はどのように説明したのかということで御質問を頂きました。

昨年の11月議会では、開会時の知事所信及び本会議答弁におきまして、県都のグランドデザイン策定に当たり、森となるまちづくり構想全体の考え方として3点要旨を申し上げますと、長年の課題である徳島駅周辺のまちづくりを実現するため、駅の南北を分断する車両基地を移設し、北口・北側開発を進める、車両基地については、どこからでも鉄道高架工事に着手できるなどのメリットがある旧文化センター跡地へ移転する、このためには、新ホールの建設地を変更する必要がある、同時に建設場所については藍場浜公園西エリアのほうが、まちづくりやあわぎんホールとの一体活用などの面で優位性があることから候補地とする、これらを検討する旨を知事より申し上げました。

眞貝委員

今のお話を聞きますと、まちづくりの構想全体を検討する上では、北口・北側開発、車両基地の移設と新ホールの建設地変更は関連があると言えるのですが、これに関して、どのような議論や検討をなされたのですか。そこを御説明いただけますか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

これらに関して、どのような議論や検討がなされたのかという御質問でございます。

11月議会では本会議にて、議員から車両基地の移転が完了するまで待つというのではなく、事業一つ一つが熟度も条件も異なる中で、それぞれが最善最速での実現を目指すべき、特に新ホールについては早期実現を望む多くの県民に道筋を付けるべきとの御指摘を頂きまして、知事から調査を行い具体的な内容を提示する旨を答弁いたしますとともに、いつ完成するか分からないという県民の不安を解消するため、今任期中に工事着工し、おおむね3年間で竣工を目指すとの方針をお示しいたしました。

また、翌2月議会では本会議にて、議員から新ホールと車両基地の関連性につきまして御質問を頂き、同じく各事業一つ一つが熟度も条件も異なる中で、それぞれが最善最速での実現を目指すべきとの県議会の御指摘を踏まえ、新ホールは6月定例会にて具体を示す旨を県より答弁をいたしました。

その後、県におきまして藍場浜公園西エリアでの新ホール整備に係る調査を行いまして、さきの6月定例会では、昨年11月の検討時から期待しておりましたまちづくりでの優位性に加えまして、1,500席以上が可能で舞台の規模や機能も現計画と遜色なく、あわぎんホールとの一体活用で利便性が更に向上し、コスト面では工事費、ランニングコスト共に現行案より安価で、更にスケジュール面では埋蔵文化財の心配がなく、確実に整備できるという大きなメリットが確認できた旨を御報告いたしました。

このため現在、新ホールの整備場所は、藍場浜公園西エリアが最適地であると考えてるに至ったところでございます。

眞貝委員

今、経緯の説明があったので、大体の状況が分かったと思います。

改めて確認をいたしますが、車両基地移設に関する調査等の進捗状況にかかわらず、新ホールは藍場浜が最適地と考え、進めたいということは、様々な議論を経た現在、玉突きではないということでしょうか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

新ホールは、藍場浜が最適地と考え、進めたいということは、議論・検討を経た現在、玉突きではないということでしょうか、との確認の御質問でございます。

先ほどの答弁のとおり、11月のグランドデザイン検討時においても駅周辺の魅力向上とまちづくりの観点から、新ホールは藍場浜公園西エリアを候補地としたいと考えてきたところであり、それぞれ最善最速での実現を目指すべく、その後の調査において、その優位性と更なるメリットを確認し、現在県として新ホールは藍場浜公園西エリアが最適地と考えるに至ったところでございます。

これまでの説明を覆したり否定するものではなく、眞貝委員からお話がありましたとおり様々な議論・検討を経た現在、玉突きではございません。

#### 眞貝委員

元々まちづくりの構想全体を考える中で、車両基地の移設と新ホールの建設地変更は関連性を持って検討する旨を県議会に説明し、最善最速の実現を目指すとの方針で、その後の調査を進めてきていると、そして藍場浜の優位性と更なるメリットを確認したので、現在、新ホールは藍場浜が最適地と考えており、これを進めるということでもありますね。

そうであれば、まちづくりの観点から新ホールは藍場浜での整備を目指すとしてきた県の考えは一貫しており、我々県議会としては玉突きかどうかではなく、車両基地移設や鉄道高架の検討が終わっているか終わっていないかにかかわらず、一日も早い新ホールの整備を望む県民の声に応えるべく、しっかりと議論していけばよいのではないかと思います。それで質問を終わります。

#### 川真田委員

私も新ホール整備について、お聞かせ願いたいと思います。

先ほど眞貝委員の最後のまとめにもございましたし、今定例会において藍場浜公園西エリアで新ホールを整備するとの知事の決意が示されたところであります。

一日も早い開館に向けてスピード感のある事業推進を求められていることは言うまでもございませんが、そんな中、会期延長だ、公聴会だという声がある中で、藍場浜公園西エリアについては、昨年11月から議論が交わされ、約1年がたちます。

また、こと県立新ホール整備については、令和2年度から、いろいろな利用者の視点を鑑みた、また意見や声を聞いた上で今の計画が進んでいることと思います。

議員各位におかれましても、少なくとも県民また地域の方の声や意見を酌み取った上で、この1年間、藍場浜西エリアの議論をされてきたと私は思っております。

そんな中、県といたしましては、これまでの意見や声を、どのように生かし反映してきたと考えられますでしょうか。

#### 伊澤文化プロジェクト室長

川真田委員より、新ホール整備に当たる県民の皆様の意見、特に反映ということで御質問を頂いております。

ホール施設、公共施設はどれも同じとは思いますが、特にホール施設を整備する場合におきましては、利用者である県民の皆様や文化関係者、専門家の方々からしっかりと御意見を頂きながら、それを反映させることでいいものにしていくというプロセスが大事だと認識しております。

本県の新ホール整備におきましても、旧文化センター跡地における、例えばこれまでの流れで言いましたら、建設地やおおよその規模というのは当初より示されていたものの、施設の具体化に当たりましては、県民アンケートはもとより、様々な分野で構成されます検討会議の場で意見交換し、また事業の土台になります整備基本計画の策定に当たっては、パブリックコメント等も実施した上で、施設の具体的な方向性を示すプラン、計画と

して取りまとめをさせていただいております。

藍場浜公園西エリアの案は、昨年11月に候補地としてお示しし、今年6月定例会で調査結果を御報告しておりますが、この調査結果の一つでありますモデルプラン、この中には、これまでずっと頂いていた意見を踏まえて十分な施設になるように、例えば多目的スタジオや複数の活動室、柔軟性のある搬入搬出動線などの形で意見を反映させたところがございます。

川真田委員

県立ホールの整備については、これまでも様々な機会を設けて、県民の声を聞いて、可能な限り計画に反映してきたとのことでございました。

そしてまた、既に報告のあった藍場浜公園西エリアにおける調査モデルにも、今までのそれらの意見を盛り込んだとのことでありました。

新ホール整備事業は、スタートをしたばかりというか、まだスタートの地点であります。

藍場浜で新ホール整備を進める場合において、さらに今後、意見を聞く機会などについて、具体的にどのようなお考えがあるのか、教えていただけますでしょうか。

伊澤文化プロジェクト室長

川真田委員より、藍場浜公園西エリアにおいて整備を進める場合の意見等の聞き取りに関する御質問でございます。

当エリアで新ホール整備を進めるとなった場合におきましては、当然のことながら施設の具体化を進める必要がございます。これまでの調査結果をベースに早期整備プランを取りまとめるというところを考えております。

この早期整備プランの取りまとめに当たりましては、早急に建築関係者、各分野の関係者の方から具体的な意見を聞き取り、また有識者などと意見交換する機会を設けたいと考えております。

頂いた意見を具体の施設の規模や機能、また整備手法や運営方針などの新ホールの具体的な方向性の中で生かしていきたいと考えております。

また、意見交換の結果を踏まえた早期整備プランの案がまとまりましたら、このことを県民や県議会の皆様にお示しすることはもちろんですが、県における他の計画策定と同様にパブリックコメント等も一定の期間を設けて実施していきたいというところでございます。

これらで頂いた意見、声を可能な限り反映させた上で、プランを取りまとめて、今後の早期整備につなげてまいりたいと考えております。

川真田委員

今後もこの議論が長く続いていく中で、多くの意見や声があると思いますので、それを生かしてホールをしっかりと実現していただきたいと思います。と考えております。

藍場浜で整備を進める場合、一日も早いホール整備を待ち望む声に応えるため、スピード感を持ちつつも県民の声にしっかりと耳を傾けて、実際に利用する文化関係者の意見を丁寧に酌み取ることで、県民に親しまれ、誇りの持てるホールの実現につなげていただき

ますようお願い申し上げまして、私からの質問を終わります。

庄野委員

ホールの問題についての質問ですけれども、私は一連の知事の発言、それからXの投稿等々におきまして非常に憤りを感じております。

まずは、代表質問の二日目が終わった次の日の新聞に載ったんですけれども、藍場浜への建設に反対する人たちは反対のための反対をしていると。反対のための反対は私はしたことがないですよ。

みんな予算がどうなのか、規模がどうなのか、そういうことを考えて、県民のためになるようなホールを本当に作っていただきたいという思いで発言をしてきましたけれども、知事は反対のための反対ということで、私たちをいわゆる抵抗勢力のように、私たちというか私を抵抗勢力というふうなことで言うておりましたけれども、とんでもない発言です。

それと、常任委員会の経済委員会で、知事のXの投稿で、新ホール問題ついに終止符、について、いろんな県民からも、知事の案に反対する人は抵抗勢力ですか、県民の声を聞くはずではなかったんですかという声も多く聞かれて、岡田理絵議員が、このことについて、非常に反省を求めたい、ひどい、というようなことも言われたようなことが報道されておりましたけれども、私はまだ予算も出ていない段階から、幾ら個人のXとはいえ、県民軽視、そして議会議員も軽視していますよ。

今も新ホール藍場浜案に賛成するかのごとくの声が聞こえましたけれども、私は議員も怒らないといけないと思うのです。予算も出ていない段階から閉会日に予算を出すと言っているのですよね。

その出ていない段階から知事がそういう考えで載せたと、個人的なXとかいう問題でなく、知事の資質の問題だと思います。

大きな意味で言えば、閉会日に賛成してくれる過半数の議員を確保したから、もうこれで出来上がりだと、言わば我々が幾ら言っても、これはもう出来ているのだというふうなことを言っているんです。だからもっと議員も怒らないといけません。なれ合いと言われますよ。

それこそ、今の後藤田知事が前の知事と議会の関係を捉えて、なれ合いだと言っていた。議員は猿山の猿だと言っていたんです。そういうことが今、また、起ころうとしているのです。

議会軽視も甚だしいです。そして昨日もちょうど県土整備委員会があって、その時にも申し上げたのですが、知事がこういう勝手に発言するのは、危機管理として、個人の問題ではないのです。言わば徳島県としての資質が問われるんです。

だから危機管理として、こういうXの発言はいいんですかと言ったら、これは知事戦略公室の問題だというふうに言われました。少なくとも私は本当にひどいなと思いました。このことについてどう思われますか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

庄野委員より、知事のXでの発言について御質問を頂きました。

まず改めてでございますが、知事の考え方を御説明させていただきます。

一日も早く新ホールを作りたいとの思いが強く、その焦りからこのような投稿になった。対立をあおる意図はなかったとはいえ、このような独善的ともいえる表現に対し、県議会の皆様、県民の皆様から多くの御批判を頂いたことを反省し、知事として今後このような投稿は慎む、以上が知事の発言でございます。

その上で、反対のための反対等の発言につきましては、知事は民主主義社会においては賛成、反対それぞれの意見を戦わせ、議論を行うことが重要であると考えておりまして、SNSでの投稿はこうした意見のやり取りを歓迎するという趣旨で、私どもはそうのように理解をしております。

庄野委員

全然納得はできません。

知事の言わば資質の問題かもしれませんが、全国の人が見て、これは徳島県議会に対する挑戦だろうと私は思っております。

賛成の多数派を確保すれば、もう決まった、後は何を言ったとしても知らない。私たちは建設的な意見を言っているのです。

これは本当に許せないと思いますが、もう置いておいて、また本会議でも質問させてもらいます。

それと、今回の予算を閉会日に出すという大きな前提で、先ほども吉岡知事戦略公室長が言われましたけれども、県知事と徳島市が合意したということで、藍場浜案の予算措置をするということだったんですけれども、県と市は、合意はできていないのです。

徳島市議会も、遠藤市長がさも合意したかのような報道があつて紛糾しました。これで市議会全員協議会を行って、市長の意見を聞いたら市長は個人的に合意ではなく同意だったと。

そして徳島市議会の総務委員会が9月17日に開かれています。これでいろいろ委員さんから議論があつて、市長個人的についてどういうことなんだということがいろいろあつて、これは議事録ですから間違いありません。結局、第一副市長が答えているのは、市長が個人的に知事のお考えに同意をしたということでございまして、同意というのは徳島市として合意しているということではございませんとはっきり申し上げます。だから合意はしていないのです。

そして、市議会のいわゆる基本協定がありますよね。基本協定にのっとって今まで徳島市議会は動いてきたと、予算を使ってきたと、汗もかいてきたと。でも、市長が言わば勝手にというか同意したことに市議会としても紛糾をして、今も市議会は続いています。

県議会の前の日が閉会日とお聞きしていますけれども、かなり厳しい意見も出るように聞いております。

そうした中、基本協定だってそのまま改定もせずに残っているわけでしょう。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

徳島市長との合意についての御質問でございます。

合意・同意の関係で申し上げますと、今回資料としてお示しさせていただいております。

す、県都のまちづくりに関する今後の取組方針について、まず執行機関の長である徳島市長と徳島県知事が合意をしたものと認識をしております。この認識につきましては、徳島市にも確認済みでございます。

また、先ほどお話がありました、9月17日の徳島市議会の総務委員会における市の発言のことにつきましても、徳島市といたしましては、この度の取組方針については県側から示したものであり、市長として知事の提案に賛同したものであるとして市側は同意と表現しているにとどめるとのことでありまして、県市それぞれの立場による表現の違いと認識をしております。知事と市長の合意に何ら違いはないと考えております。

また、先ほど議会でということですが、この度の合意につきましても、議事機関、議決機関である徳島市議会まで含めたものではないということと考えております。

知事と市長が合意した、今後の取組方針の中にも、県議会、徳島市議会に対し十分な説明を行い、県市協調の下、まちづくりを推進するとしておりまして、これに沿って現在徳島市において市議会への説明がなされているとのことであります。

この中で先ほど御質問がありました基本協定の改定等についても、徳島市と協議を進めてまいりたいと考えております。

#### 庄野委員

でも、今言ったことはかなり大きな問題ですよ。

きちんと9月17日の総務委員会で、徳島市の松本第一副市長は市長が個人的に知事のお考えに同意したということですが、同意というのは徳島市として合意しているということではございませんとはっきり言っています。

市として合意したということか、徳島市に確認してみてください。この答弁と今のあなたの答弁とは違いますよ。どういうことですか。徳島市の第一副市長がうそを言ったということですか。9月17日に第一副市長がちゃんと言っているのですよ、合意していないじゃないですか。

それと、市議会は合意していないと言ったのです。市議会は今開かれています。市議会の状況によっては、基本協定というものがどうなるかわかりません。

それと大きな問題は、文化センター跡地です。文化センター跡地は徳島市議会で県市協調の新ホールが作られるために市議会でも決定をして徳島県に差し上げると。県議1期目の方は分からないと思いますが、その当時、県議会の中でも、この土地は無償譲渡されるんだけれども、県市協調の新ホールを作るために頂くのですよということで全員で議決しているのですよ。

だから、もしこの協定が破棄されるということになれば、文化センター跡地は返さなければいけない。

それとあと、中央公民館や福祉センターを壊したお金は、現金で満額を戻さなければいけない。その後迷惑料として基金を積むようなことになる可能性もあります。

市と第一副市長の答えとあなたの答えは違う。もう1回徳島市に確認してみてください。合意が最終日に予算付けすることにつながっているのですよ。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

何点か質問を頂きました。

まず合意の関係でございますが、執行機関の長である徳島市長と徳島県知事が今後の取組方針について合意をしたということで、この内容につきましては徳島市にも確認をした上で発言をさせていただいております。

次に、市との合意が進まなければということでお話を頂きましたが、まちづくりを推進するに当たっては徳島市との県市協調が欠かせないと考えておりまして、7月末には県都魅力度アップ推進ワーキンググループを再起動いたしまして、実務者間で具体的な協議を進めてきたところでございます。

こうした状況を踏まえて9月14日の知事と市長の会談におきまして、先ほど申した今後の取組方針について合意に至ったところでございまして、正に県市が同じ方向に向かってまちづくりを進めていこうというところで方針が整ったところであると考えております。

市においては、今市議会に対して市長及び理事者が理解を得られるように説明が尽くされているものと認識をしておりまして、県といたしましても、こうした県の考え方や県議会の御議論の状況、県民の意見などについて、しっかりと徳島市と情報共有、情報交換を図り繰り返していくような協力を行ってまいりたいと考えております。

#### 庄野委員

いろいろ答弁いただきましたけれども、私は木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監が総務委員会で、ホール建設地を藍場浜公園にする理由については、調査でメリットを確認し最適地と考えるに至ったと、今日も同じような答弁をされました。でも、徳島市議会で、質問したという公明党の議員が作成した文章を頂いたのですけれども、敷地面積から言えば、大体市の文化センター跡地は1万9,004㎡、藍場浜公園御成婚広場は6,600㎡、3分の1を満たしません。

そして施設の規模は、市の文化センター跡地は地上8階地下1階1万6,223㎡、そして御成婚広場で出てきているのは地上4階地下1階1万1,400㎡とかなり広さに差があります。

建設費は、文化センター跡地が193億9,300万円、御成婚広場は142億円プラス12億円で154億円、いろんなことを入れたら、余り変わらないということが、さきの委員会でも示されました。それと市の文化センター跡地はもう既に設計費8億円、基本設計、実施設計は、完了しています。それと財源は交付金等交付税措置の2分の1の有利な地方債。藍場浜公園は未定です。

工事期間と準備期間、市の文化センター跡地は約2年11か月プラス6か月で約3年5か月、2027年の2月開館予定。藍場浜公園の御成婚広場は約2年10か月プラス6か月プラス設計期間1年6か月を合わせて約4年10か月、2028年7月開館予定。

今まで皆さんが言ってきたことからいうと、開館予定も文化センター跡地のほうが早いですよ。今の文化センター跡地にすれば、遅いというのはどんなお化けが出てくるか分からないから。そのお化けというのは埋蔵文化財で、橋脚か何か分かりませんが、埋蔵文化財がかなり深い所にあって、矢板を打ったり、いろんなことをしないとイケないから、その分はもしかすると長く掛かるかもしれないという理由で御成婚広場にしたいほうが早いと言っていたのですよ。

ですが、思い返してみると、去年の11月ぐらいから今まで何も進んでいないじゃないですか。その期間に調査をしていたら埋蔵文化財の調査も、もう済んでいるんですよ。担当部局が決まっていないからできないと言っているけれども、お化けが出てくるかも分からないから、そこは遅いから藍場浜公園でやるんですというのは、理由付けにならないと私は思います。

まだいろいろあります。大ホールは、市の文化センター跡地は1,804席です。1,726席プラス車椅子。藍場浜公園御成婚広場は1,504席プラス仮設席などと書いていますね。あと文化センター跡地は、小ホール307席。藍場浜公園はなし。

市の文化センター跡地は、旧中央警察署跡に、平地の駐車場が166台分。藍場浜公園は、地下駐車場95台分をマイナスですね。昨日も企業局に言いましたけれども、定期契約している車が200台あるんですよ。今の200台の定期駐車の方々は、フルタイムじゃないですよ、夜間だけの人もいますし土日除く人もおります。藍場町地下駐車場の3分の1、95台がなくなったら、その方々やほかの一般の方はどうやって駐車するのですか。そのことを申し上げました。

企業局も独立採算制ですから、当局に企業局ももう少し言いなさいと。その収入で指定管理者の人員も含めてやられているんです。だからそんなこともあって、駐車場をそれだけ壊して、どこにメリットがあるのですか。

藍場浜にした方がメリットがあると考えて、推進しているというのは、申し訳ないけれど、皆さんが言っている理論が私はそれはよく分かりませんね。

本会議の代表質問の時に私は言いましたが、石上純也という設計された方、これは熊谷・石上純也ということに設計施工となっていますけれども、あとは共同事業体です。オペラをやっている浅香先生が言っていましたけれども、歴史的な石上純也さんも設計をしてくれると、有名な設計屋さんがしてくれると、他県からも見に来てくれるだろうと、立派なのができるだろうと言われていました。

それと私のところにメールも来たのですけれども、オペラ徳島は御存じですかね。オペラ徳島の方々は、本当に早くできてほしいということで、少ない予算でやられている。ホールができるかなということで作られたと聞いていますけれども、そうした方々が文化をずっと継承しながらやっていて、いい所でやりたいと、小ホールもあって、そういうきちんとしたホールを造っていただきたいという声も今までも、ずっとあったのですよ。そういう声があって初めて現計画ができています。

現計画というのは、市の文化センター跡地を含めたあのエリアに作るということで決まっているのです。

それを無理無理玉突きでないという議論がありましたけれども、私は玉突きであると思っています。そういう説明を今まで、知事も県もしてきましたから。

こういう北側開発があって、こうなって、全体のまちづくりはこうですよという議論があった。玉突きだと思っていますけれども、今聞くとそうではないというのは、私には意味が分かりません。

いろいろ申し上げましたが、私が今言った部分についても、規模から含めて、お金から含めて、藍場浜案が最適だと木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監はお考えですか。皆様方はお考えですか。無理無理じゃないですか。

伊澤文化プロジェクト室長

庄野委員より、新ホール整備に関して御質問を頂いております。

一つ藍場浜公園西エリアにおけるメリットといいますのは、これまでにしてきた答弁と同じですが今、お話の中で敷地の面積に関してございました。

旧文化センター跡地におけます敷地面積が約1万9,000㎡、藍場浜公園西エリアが約6,000㎡強という形で、実は旧文化センター跡地の1万9,000㎡の中で、実際に新ホールの建物にあたるというのが、計画では約1万1,000㎡で、その中で建築面積として約9,000㎡程の設計になるということで、敷地全体がホールになるという形ではないということと、あと藍場浜におきましては敷地面積が6,600㎡ぐらいの所に建物としての建築面積は約4,100㎡で確かに小さいようでございます。この中で劇場を考えるというところであります。

あと、地下1階地上8階に対して地下1階地上4階と聞きますと相当な差があるのですが、ホールのフロア構成といいますのは、特に旧文化センター跡地における計画の場合は、内部が非常に特徴的な構成になっておりましたので、階数が建物として成立させるために8階建てとしており、決して機能的にそれが半分に満たない藍場浜に勝つという話ではないという点を少し考慮いただいたらと思います。

あと、オペラ徳島のお話もございました。新ホール整備が始まる前からオペラ徳島は、徳島における市民参加型オペラの先駆けということで活発な活動をされております。

私の記憶によれば旧文化センターがまだ稼働していた頃、旧文化センターの前の席を除いて、オーケストラが入って、オペラをやられていたと思います。

旧文化センターが閉館になったあと、前にオーケストラが入ることのできるホールというのは徳島県内に無くなりましたので、その後一時期活動を休まれている時期もあったと記憶しています。今現在また活動再開されて公演を予定されているというふうに聞いており、その時にも一日も早くオーケストラピットのあるホールが徳島にできるようにという声も我々も聞いております。

オーケストラピットにつきましても旧文化センター跡地はもとより、藍場浜においてもしっかり押さえていきたいと考えているところです。

どちらがいいかというよりは、それぞれにしっかりと機能を生かしていきながら、その上で藍場浜の強みである駅に近い、人の流れが呼び込める、埋蔵文化財が見込まれないので着実なホール整備ができる、このあたりの強みを生かして整備を進めてまいりたいと考えているところです。

庄野委員

伊澤文化プロジェクト室長もかなりつらいだろうと思います。

実際に文化センター跡地のホールをずっと皆さんが計画されてきて、そちらの方向で、本当に苦労されて、徳島県の職員も、徳島市の職員も、いろんな文化芸術に関わる方々の声を聞いて、ようやく基本設計、実施設計ができて、それで進むのかなと思っていたら、知事が代わるとこれほどまでになるのかなというのは思いますけれども、私は行政は継続性というののもいると思います。知事と市長が公印を付いて合意した、その合意に基づいて

様々な建物を壊したり、それから構造物を撤去したり、そうしたことを紳士的にやってきたのです。

それをやるためにどれだけの労力が掛かってるのか。お金は掛かりましたけれども、早く造るために駐車場も壊し、無理無理藍場浜にするということに、どこに合理性があるのか、私はよく分かりません。

そんなことをしていたら、例えば民間の方々と知事が契約して、知事が代われれば、その民間との契約を、ここが気に食わないからやらないということになったら、それはもう裁判沙汰ですよ。

その契約をどうやって履行するのかということに、むしろ苦労していかなければ、公印を押して民間企業と契約したものを、トップが変わったら破棄されるかも分からないという、そういうところに誰が契約してくれますか。

今度も仮に藍場浜の御成婚広場に基本計画からいろいろ進んだと仮にしましょう。そうしたらそれを誰が受けてくれるのですか。

徳島県にそんな大きなものができていたのだけれど、まだ計画は生きているのに、うそばかり言って破棄すると言ったら、すみませんでしたでは済まないと思いますよ。

新たに藍場浜公園の所の計画を知事と巻いたとしても、また知事が代わったら、また違う所にやられるのと違うかなという不安も私はあります。

だからやられている皆さんは、知事の命令に従わないと仕方がないかも分りませんけれども、私は兵庫県の例を見ても、知事は何も言えない存在とは違うのですよ。今までやってきた方々がそれは違うよということも提言してあげないと知事は分らないのですよ。

しっかり提言して、それでも自らが間違っているのに左遷させるということがあったら、公益通報をしたらいいのですよ。

それを何でもかんでも、みんなイエスマンになってしまったら駄目なのです。兵庫県の例を見てもよく分かるでしょう。だから言うべきことは言う、そうしないと行政が停滞してしまうのですよ。先人がいろいろ苦労して作った計画を、こんな無理無理の所の藍場浜御成婚広場に持っていく。

そしてしまいには玉突きでないと。内町地区の住民が騒音とかで反対しています。11月議会に資料が出てきて、あそこはお金も高いし費用対効果も余りないということになったら、車両基地の移転もできない可能性だってあるのですよ。そうしたら、あそこはそのままの土地で残るのですか。そういう懸念だってあるのですよ。

今、それが玉突きでないという言いかけた議論なのかなと、私は勝手に思っています。車両基地ができなくたって、ホールだけは藍場浜に作ると。中途半端はいけないけれど、立派なホールができると思うのですけれど、余りにも無理無理過ぎる。強引過ぎるということを私は感じています。これは、どうですか。

#### 木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

まちづくりの進め方について御質問を頂きました。

まちづくりを県と徳島市で進めるに当たりましては、知事と市長の考え、同意だけではなくて、県市のワーキングをはじめ、県と市のそれぞれ事務方の協議、方向性の確認、事務のすり合わせ、県市ともに県民市民の御意見の確認、住民の方からの御意見、御要望を

しっかりと聞く、知事、市長がということではなくて、こういった様々な点を県市が連携してお聞きをし、調整をして進めてまいった、そのために県市ワーキングもできたところでございますので、先ほども答弁させていただきましたが、市としっかり情報共有を図りながら進めてまいりたいと考えております。

庄野委員

私は徳島市議会の議論を見る必要があると思うのですよ。閉会日に、どういう形になるか分かりませんが、お聞きしているのは議会のことですから、かなり厳しい意見も出ておりますので、県が強引に閉会日に藍場浜公園のホールについて予算化するというようなことになれば、県と市の関係は、かなり厳しくなるというように予測します。

だから、私は、今議会に無理無理に予算を出す必要がないと思っています。出さないほうがいいと思います。11月議会で車両基地の調査について、何か出すと言っていました。11月議会に何を出すのでしたか。

桂野まちづくり室長

ただいま、庄野委員より、11月議会では、車両基地について何を提出するのかという御質問を頂きました。

鉄道高架事業につきましては、11月に、文化センター跡地に車両基地を移設した場合の新たな計画の事業費、また公共投資を評価する費用対効果を算出して提出したいと考えております。

庄野委員

それだったら本議会にホールの予算を出すというのは、私は理にかなっていないと思います。

例えば、11月議会の車両基地の移転が費用対効果も含めて妥当なのかどうなのかということを知った上で、それと市議会の判断も見た上で、予算化するのが筋だと思います。本議会に出す理由が分からない。本議会に出す理由付けとして私が今感じているのは玉突きではないということだけです。

玉突きということになれば、今議会に予算が付けられないのです。だから費用対効果が11月議会に示されるから、それを見て議会がどういう判断をするのか。

車両基地を文化センター跡地に持ってくるのは、混乱するのであれば、藍場浜に行く理由がないと思うのですよ。そんなだったら、ホールをそこに建てたらいいじゃないですか。そういう議論だってあり得るのですよ。

ですから、今も何も出されていませんが、今議会の閉会日に無理無理にどんなものが出されるか分かりません。分からないのに、Xではもうできたと知事は言っている。こんなおかしい話があるはずがない。

閉会日に出てきた予算に賛成する議員も、私は意味が分かりません。賛成するかどうか分からないのに、知事は賛成してくれるようなことを勝手に言っているのです。調整されているのです。

議員に言う場でないので言いませんけれども、でも私はそう捉えています。いかがです

か。今議会で予算を出すべきでないという僕の意見に対して、どう答えますか。

伊澤文化プロジェクト室長

庄野委員より、定例会におけます予算の提案に関する御質問です。

新ホール整備について、長年議論が続いております。このような中で、現在1,000席以上の公共ホールがない状況となっております。他県と比べましても当たり前のものが徳島にないという状況だと認識しております。

これを踏まえて、文化芸術関係者のみならず、多くの皆様から早くしてほしいという御意見が来ているところです。

こうした状況を踏まえまして、新ホールを待ち望んでいる皆さん、先ほどオペラ徳島の方の状況もございましたが、切実な声、これに一日でも早く応えたいということで、藍場浜公園西エリアにおいて今年度中に事業者選定を開始したい。そして来年度早期に設計等のスタートを切りたいと考えておりまして、この定例会にそれに必要となる予算を提案させていただきたいと考えております。

庄野委員

時間ですから終わりますけれど、私は今議会で予算は出すべきでないと思っております。これを出すことによって県と徳島市の関係がかなり厳しくなる。そして基本協定の部分まで及んでくる。建設がもっともっと遅れるというふうに私は思っております。以上を申し上げて終わります。

岡委員

先ほど庄野委員から一番最初に出たのがXの投稿の分でした。皆さん多分中身を見たことはあると思いますよね。

知事は、先ほど説明があったように焦りと、どうしても前に進めたいという強い思いがあって、あのような投稿をしてしまったということなのですけど、見たことがありますよね。答えてください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

内容については、承知をしております。

岡委員

ふんだんに絵文字を使って非常に楽しそうな、何か自分の言うことを聞いてくれる人と一緒にやっていきますよ、ほかは排除しますよというようなことを書いていらっしゃるのです。

焦りであったりとか、自分が言っていることがなかなかうまく進んでいかないというもどかしさがあるというのだったら、ついつい強い口調になってしまうという気持ちは分からないでもないです。公の人間なのでそんなことをするべきでないと思っておりますけれども、これを見て、どれだけの人が、思いの余りにこのような投稿してしまったとお感じになるか、非常に疑問に思います。

庄野委員の言葉を借りるなら、どうせ数はできているから、幾ら反対したって一緒だと、自分の言うことを聞く人だけ一緒にやっていくんだと、あとの者は排除して意見も聞かないというようにおっしゃっているようにしか見えない。

慎むとおっしゃっていましたが、そもそもこの知事さんの一番最初のスタートというのが、猿山の猿発言でしたね。過去に、国会議員時代に県議会であつたりとかにいろいろと、誹謗中傷と本人は思っていないのかもしれませんが、そういう投稿をしていたことに対して、6月議会の前の5月の臨時会での謝罪から始まっていますよね。突然思い余ってこのような投稿をしてしまいましたと。たった1年半でこれですよ。

反省して投稿を控えるといっても、恐らくまた出てくるんだろうなと。議会をたたいてと言われるので、次はマスコミをたたく。結局そういうことをずっと続けていかれるのではないかなと、本人の本質的な部分がそういうところなのではないかなと感じています。

御自身の評価を落とすだけなのに、幾らでも投稿されたいと思うのですけれどね。初めにSNSとかに制限をかけておいたらと言いましたよね。このような形で注目されるというのは徳島県としても本意ではないでしょうし、我々としても徳島県の恥部をさらすような行為なので、改めて申し上げておきますけれども、こんなことで話題になるのは、もういい加減にしてほしいということは、はっきりと伝えておいてください。

今日もいらっしゃらないかもしれないし、いらっしゃっても聞いていないかもしれない。総務委員会では、こういう意見が出ているのだったら御本人が来て謝ったらどうですかと申し上げたのですけれども、御本人は来られることもないでしょうし。だからきちんと次はないよと伝えておいてください。そのことを強く申し上げておきたいと思います。

先ほど議論になっておりました、いわゆる玉突きですね。ルービックキューブ的とか、いろんな発言をされていたと思います。11月の定例記者会見ですかね。グランドデザインを発表する時に何度も玉突き的な影響があつてということをおっしゃっています。それが今となって、これは玉突きではないですというようなことになってきたのです。いつ頃、明確に玉突きではないというような考えに変わったのかということをお答えいただけますでしょうか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

いつ頃状況が変わったのかということで御質問を頂きました。

先ほど眞貝委員にお答えした内容と一部重複いたしますが、11月の開会日及び本会議答弁の際には、先ほど申した北口・北側開発の件、それと車両基地を旧文化センター跡地へ移動する件、それとこの度にはホールの建設地を変更……

岡委員

時期だけ言ってくれたらいいです。どれぐらいにそういう考え方に変わったのか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

どれぐらい、いつ変わったかということで、11月議会で一つ一つが熟度も条件も異なる中で、それぞれ最善、最速での実現を目指すべきということで御指摘を頂き、その後は一

貫して県として現在の状況まで、この考え方で進めてきたものでございます。

岡委員

去年の11月からということによろしいですね。発言をした後でということでもいいですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

いつ変わったのかということで、去年の11月の御指摘、2月での県議会での御審議、それと6月の調査結果の内容を報告した際の御審議を踏まえ、県として現在の藍場浜公園西エリアが最適地と考えるに至ったところでございます。

岡委員

はっきり時期を答えてください。6月議会の後、そのもうちょっと前、去年、年末、そこを答えてと言っているのです。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

11月の本会議で議員からの御指摘を踏まえ、県として現在の藍場浜公園西エリアが最適地と考えるに至ったところで、その経緯を申し上げたものでございまして、11月から6月の報告まで一連のものとして県の考えが今に至った経緯を、最適地と考えるに至った経緯を説明したものでございます。

岡委員

最適地と至った経緯というのは、だから玉突きじゃないですよと、ここは最適地なんですよというのは去年の11月ぐらいには、大体そういう方針で行っていたということですか、それでいいですか。はいかいいえでいいんです。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

昨年度の新ホールの建設地を藍場浜公園西エリアにしたいと申し上げた時から優位性があり、最適であると考えておりまして、その点から県の考え方としては一貫しており変更はございません。現在においても最適地であると考えているところでございます。

岡委員

初耳なのですけれども、適地として選定をした結果、元々は旧文化センター跡地に建てると言っていたのが、車両基地が来るので、適地を検討した結果こっちに持ってきた、それがいわゆる玉突きであるという認識であったのですよね。だけど、そうではないと、適地としてあそこがあるのだと、ホールはここがいいのだというようなことの認識は11月ぐらいから持っていたと。

そうしたら今年の6月定例会、最大会派の会長さんの質問なのですけれども、新ホールについて伺います。さきの11月定例会で県都とくしままちづくりグランドデザインが示されました。新ホール整備については、J R車両基地の移転検討に伴って、藍場浜公園

西エリアを候補地とする考えが示されましたと言っているのですね。これは今年の6月です。

おかしいですよ。あなた方がきちんと、その説明をできていたのであれば、なぜこんな勘違いしたような、これ、勘違いですよ。別にそうじゃないですよ。車両基地の移転に伴ってこちらに移転したわけではないという考えに去年の11月に至ったのでしょうか。ホールはここなんです、たとえ車両基地が移転してもしなくても、ここなんですということなのでしょう。そんな話は1回も聞いたことないですよ。

多分、事ここに至って初めて出てきたんですよ。

与党と言われる会派の方々は聞いていたのかも知れませんよ。その時も言いましたけれど、我々としては一切聞いていない。

元々、駅北開発というものが頭にあって、それをやらなければならない、そのために車両基地を移転させる必要がある。南北の分断を解消する、北側は公園ですが、南北の分断を解消する必要があるから車両基地を移転させる。

元々の位置だったら南側からしか進められないというようなあい路があったので、それを検討した結果、そこへ持っていったほうがいいだろうと。そこへ持って来るので、そこがホール計画地だったので、いろんな所を検討して、県の土地でもあるし、隣にあわぎんホールもあって連動もさせやすいだろうということで、適地としてここへ持っていったという説明を村上副知事さんから11月議会の前に聞いているのですよ。その時だけで2時間ぐらいやりとりしました。

それが11月の議会が終わるか途中の議論を聞いた時点で変わっていたというのであったら、そもそものグランドデザイン自体が、あそこへ車両基地を持ってきて駅北開発をする。ホールに連動させて街中ウォーカブルで歩いて、アリーナもおっしゃっていたけれど、そういう街づくりをすると言っていたのに、駅北開発と鉄道高架がどうなるか分かりません。車両基地が加わってくるわけでもないかも知れません。

グランドデザイン自体のやり直しであったり、もう1回議論を詰めなければいけないと思うのですよ。

もっと言うと、木を見て森を見ずとおっしゃっていましたね。そもそも去年の11月にホールの具体的な案を出すという話をしていました。

説明に来たら突然、県都まちづくりグランドデザインということを出して、ホールの具体案が示されぬままに、こういう計画で木を見て森を見ずという話になったのです。いろいろ時間が掛かったりとか、まだまだ検討が詰まっていないところというのがあるとは思いますが、そのビジョン全体を示さずに、車両基地をしなくても、取りあえずこっちにホールを持っていけますよ、駅北開発をなぜするかよく分かりませんよ、車両基地がどこに行くか分かりませんよ、アリーナもどこに行くか分かりませんよというので、始めに11月に聞いた説明は一体何だったのだろうと思っているのですけれど、その辺を分かりやすくお答えいただけますか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

11月の説明を含め、詳しく説明をということでございます。

11月の説明につきましては、先ほどと重複しますが、車両基地につきましては、どこか

らでも鉄道高架事業を着手できるなど、メリットがある旧文化センター跡地へ移転する、先ほど岡委員がおっしゃられた件でございます。

このためには、新ホールの建設地を変更する必要があり、同時に建設場所については藍場浜公園西エリアのほうが、まちづくりやあわぎんホールとの一体活用の面で優位性がある。これは、徳島駅に近く、駅前商業施設等をつなぐスムーズな動線を確保できる点であるとか、水都とくしまのランドマークとして、川沿いのメリットを生かした新たなにぎわい創出につながるということで、この場所に優位性があるということで候補地といたしました。

その後、先ほど申したとおり、11月議会での議員からの御指摘、また2月議会での議論、6月議会での調査結果の確定を受けて、県として現在、藍場浜公園西エリアが最適地と考えるに至ったということで、県といたしましてはこれまでの説明を覆したり否定したものではなく、今私から経緯を申し上げました。

## 岡委員

覆したわけではないとおっしゃっているのですけれども、訳の分からない言い訳を付けてきているなという感じです。

正に森を見て話をしましょうと言っていたのに、急にホールという木にフォーカスを当てて、このことだけ話をして、後はどうなるか分かりませんよというのだったら、グランドデザインの、知事がおっしゃっていた木を見て森を見ずという話と矛盾してくるのではないかと思います。

先ほど、最大会派の会長さんの質問の話をしましたけれども、その後に、答弁を受けて、いろんな意見がありますよと、多分具体的に規模が小さくなったらイメージがしにくいからではないと思うのですけれども、まちづくり構想の核となる車両基地移転の調査結果には、まだ時間がございます。その間、このような不安を払拭し、新ホールに関する県民の期待に応えるべきではないでしょうかということを質問されていました。

どんな使い方をされているのか具体的にというか、多分言ったから今回出てきたのでしょうか。こういうような使い方を具体的にされていますよと。

それで話が終わるわけでもないし、別にそんなことはどうでもいいことですし、コメントの中で車両基地移転の調査結果にまだ時間がございますとおっしゃっていますよね。ということは車両基地が移転するからこっちに行くのだなと。そうでないと、こういう発言は出てこないと思うのですよ。そんなことを公の場所で説明したことないですよ。

あなた方が、大々的に打ち上げて、説明した計画ですよ。公の部分で記者会見までして議会でも何度も説明したことを、何も言わずにこういう考え方でいいかって、自分等で都合のいいように、書き換えてしまうということをほかのことでも再々されているのですか。

非常に疑問に思うのです。普通その考え方であつたりとか車両基地がここじゃなくてもという話になるのであつたら、そもそも言っていたグランドデザイン自体が成立しなくなるわけですよ。

そもそもは駅北開発だったのです。車両基地がのこなくてもいい、駅北開発ができなくてもいいということですか。実際に動き出したら多分恐ろしい金額になりますよ。

800億円と中間報告が出ていますけれど、800億円でできるのだったらどうぞやってください。二十数年前に出した500億円のたった1.6倍で。そんなもので全部仕上げてできるのだったら是非ともやってください。私は、その中間に住んでいます。町が分断されているのですよ。是非是非進めていただきたいと思いますけれども、恐らく詳細が出てきたら全然金額が変わってくるでしょう。

実際に工事に掛かったら、いや資材の高騰が、人件費の高騰が、いやここに問題があって、ということが多分言って金額を積み上げていこうとしているのだろうけれど、それは絶対に相成りません。

知事が今までにやってきたことです。旧文化センター跡地のホールを207億円と言っていたのも、要項にあるからと言って無理くり本来の設計から十数億円削ってきたのです。そんなことは絶対に相成らないし、800億円で最終の概算が出てきて850億円になるのかもしれない、850億円と言ったら850億円までで、全部をやりあげなければならない。

ホールにしてもそうです、142億円でしょう。12億円の外構工事でしょう、1円たりとも上がってはいけないだろうし、その前に半額でできると言っていたのですから、早く民間の力とやらを使ってやり直してきてください。154億円、たった50億円ですよ。民間の知恵を借りたらできるのでしょう。

私は、概算設計をして、基本設計をした後で金額が下がって出てくるというのは今まで聞いたことがないです。機能を削ってするのだったらできるかもしれないですけど、機能は十分満たしているわけでしょう。機能的に遜色がないのでしょうか、僕はあると思います。そういうことをきちんやっていたら、知事が発言したことを、説明もなしに勝手に解釈を変えるのだったら議論とかできないわけですよ。

我々も皆さん方がちゃんと報告をしてくれる、きちんと正しいことを言ってくれるということを前提でやっていますからね。勝手に解釈を変えて、これは違う、最初はこうやって言っていたけれど違うのですよと、後から変わったのですよって、事ここに至って言われても、どうしろと言うのですか。予算を出すと言っているのでしょうか。徳島市議会の議論を恐らく皆さんは聞いていらっしゃると思います。

先ほど、また大きい問題発言をしたと思いますが、あの発言を徳島市には確認したと言いましたよね。誰にどういう形で確認したのですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

徳島市の市長との合意について、誰に確認したのかという御質問でございます。

先ほどと重複いたしますが、今後の取組方針について執行機関の長である徳島市長と徳島県知事が合意をしたということで、この認識については徳島市にも確認をした上で……

岡委員

誰に確認したのかと聞いているのです。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

組織として確認を行ったもので、名前は差し控えさせていただきます。

岡委員

名前も言えないのでしょうか、だって合意したのでしょうか。徳島市長は同意して組織的に合意していないと言っていますけれど、市としては組織的に合意したと思っているので、議会には適当に説明してうまいこと進めていきますという話があったのですか。教えてください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

徳島市の幹部職員に確認した上での発言でございます。

岡委員

これは大問題ですよ。市議会はしていないと言っているのです。あなたが確認したら、いや、していますと言ったのでしょうか。これは問題ですよ。恐らく、この間の発言よりも大きい問題となると思いますよ。恐らくですが。

これは9月17日でしょう。トップ会談をして、よその自治体の人ですから余り言ってもですが、トップが出てきて、個人的に同意してきただけで組織としては何の話も決めていませんと言うのも、正直どうかと思いますよ。

その発言を受けて、これがどちらなんだと聞いたら、いや県は合意しましたと。市の幹部職員にも確認しましたと。

次に何が起こると思いますか。どちらかがうそをついているのかとか、どちらが間違ったことを言っているのかという話になってくるわけですよ。

また、こんなくだらないことをするのですか。前のホールの時も土地のことでありましたよね。ただで貸すと言った、言っていない。またこんなことをするつもりですか。

いい加減にしてほしいですよ。多分、総務委員会でも言ったと思うのですが、政策議論と言っていますが、余りにも馬鹿馬鹿しい問題でそこまで行かないのです。言った、言っていないとか、いやこれは解釈の違い。玉突きにしたってあなたたちが勝手に勘違いしていただろうということでしょう。

そういう認識ですよ。あなたたちが玉突き、ルービックキューブ的と勝手に思っただけで、我々は言っていないということでしょう。

そんなこと言われても、何回も確認していますし、本人も発言していますし、それを何の議論もなしに、今までの意見を聞いて勝手に解釈を変えたんですと言われたら、はっきり言って中身について議論ができない。

これは、旧文化センター跡地がいいか、こちらがいいかという以前の問題です。

物事の進め方が余りにも幼稚です。焦っているのでしょうか。唯一ですものね。知事がここまでに着工します、ここまでにやりますと発言したのは、これくらいです。どうしても自分の任期中に着工したいのでしょうか。

庄野委員もおっしゃっていましたが、このごたごたを見て、しかも1年も前に協定した業者を放置ですよ。普通だったら、途中で言ってこられても仕方がないと思います。

一生懸命、設計したものを、いや金がないから、194億円に合わせないといけなからって勝手に削って、そんなことをしている所に業者さんが入札に入ってきてくれるのですか。疑問に思います。何が起こるか分からないし、僕だったらやめておけと言います。

いいものを造りたい、皆に喜んでもらえるものを造りたい、駄目とは思いますが、金はある限り抑えないといけませんよ。

銭金のことばかり言われて、さっきランドマークが何だかんだ言っていますけれどね、知事自身がテレビ番組でしたか、景観なんか関係ないと言っているのでしょうか。この発言は何回もしていますよ。何がランドマークになるのですか。

デザインなんか関係ない、中で音楽を聴くだけじゃないか、ですよ。急に小ホールを作るという話が出てきている。小ホールは要らないと言っていたのでしょうか。

なぜ小ホール機能を持たせるのか、これはあわぎんホールに持たせると言っていたのではないのですか。何の心境の変化ですか。

伊澤文化プロジェクト室長

岡委員より、新ホールの小ホールに関する考え方に関してお尋ねいただいております。

藍場浜公園西エリアにおけますモデルプランにつきましては、多目的スタジオがございました。

大きい考え方としましては、大ホールは1,500席、小ホールについてはあわぎんホールを一体的に活用していくというところで変わりはございません。

旧文化センター跡地におきます計画の中にも、大ホールと小ホールに加えまして多目的スタジオはございました。

そこから小ホールを外して藍場浜で検討する上で、県民市民の方の使い勝手を考えましたら、大ホールのみという形でのホール成立というのは、なかなか難しいものがございます。

小ホールはあわぎんホールを活用しましても、併行して多目的スタジオ、この機能を拡充させる、あと活動室や練習室も複数設ける。これらがあることで、更に大ホールの機能性も高まりますし、そのあたりはしっかりと頭に置きながらホールの構成を考えていきたいということです。

決して小ホールの議論から多目的スタジオにすり替えたという形ではなくて、そもそも多目的スタジオは作るべきという考えの下で、プランとしてお示したという流れです。

岡委員

それだったら最初からそういう計画で出してきたらよかったのではないかと思いますし、小ホールは小ホールはと言われるから、パイプ椅子ですけど、椅子を出してきて多分、小ホールの機能を持たせられますよということなんだろうと思います。

聞いたことと、次に聞いたときに話が変わったり、理屈をこねくり回して、私は間違ったことは言っていないと言いつつをしたいがために、こんなことを言ってるようにしかはつきり言って聞かえないのです。

信用して話ができないからやめますというのは簡単なんです。そういうわけにはいきません。

岸本委員長

午食のため、委員会を休憩いたします。（11時52分）

岸本委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。（13時02分）

それでは、質疑をどうぞ。

岡委員

どこまで話をしたか、はっきりと覚えていないのですが、午前中、いろいろ質問して聞いたことによると、合意はできていると、徳島市長の発言が載って、議会でも議論した後に確認をして、名前は明かせないけれど市の幹部の人が組織として合意していますと言ったということですね。

あとは、玉突きの件に関しては、あなたたちの勘違いだと、11月から、初めから玉突きということは考えてなかったということですね。

議論を聞いたら考え方が変わったんでしょう。それだったら、最初言っていたことと変わっていますものね。そういう話をしているいろいろ質問して聞いていると、なんていい加減なずさんな計画だったんだろうかと思います。

多分、去年の11月で質問したので、その時にも言っていると思うのですが、北口開発と言いながら、北口の案は何一つとして出てこない、鉄道高架はどうなるかもはっきり分からない。それで場所を移動すると言ったら、それは違う、ホールは初めからここで建てるんだと。最初は玉突きだったかもしれないけれど、議論を聞いていてここが適地だったんだと。そんないい加減な話ありますか。考えて出してきたんでしょう。

何だったんですか、これが徳島を再生するためのすばらしいアイデアだと言っていた人がいたような気がするけれど、中身を見たらこんなのではないですか、北口開発が一つも話に出てきませんけれど、どれぐらい、どういう計画で、どういう中身でというのは議論されているのですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

北口開発についての御質問を頂きました。

昨年11月にお示しした県都のグランドデザインには、車両基地の移設、新ホール整備の見直しをはじめ、今、岡委員からお話がありました北側開発、アリーナなどの事業を列挙し、そのイメージもお示ししたところでございます。

現在、このうち基礎となる具体的な事業費等をお示ししているのは、現時点では新ホール整備のみでございまして、車両基地を文化センター跡地へ移設した場合の事業費等は現在、調査をしておるところでございます。

また、その他の事業につきましては、現時点では事業費の検討をできる状況ではございません。

各事業それぞれに実施主体も事業の進捗も異なっておりますので、また事業それぞれに様々な合意形成も必要でございまして、諸条件が整って初めて全体計画、事業費等が算出できるものでありまして、現時点でまちづくり全体として、具体的なスケジュールだったり、費用等については、お示しできる状況ではございません。

## 岡委員

木を見て森を見ずなのでしょう、それでは駄目なのでしょう。

森全体が見えていないのに、木を見てどうするのですか。言っていることと矛盾すると思うのですけれど、合意、合意と言っていますけれど、片方は合意を取れていないと言っているのに合意できたと進めようとしているのではないですか。言っていることが矛盾だらけなのですから、どうせ答弁できないだろうからいいです。木を見て森を見ずというのであったら、せめてビジョンぐらい示さなければいけないのではないですか。

あの映像だったら芝生の公園ですか。別に建物が建っているような絵もなかったし、言っている裏側は史跡公園ですよ。

ここに芝生の公園の面積を広げるのですか。それで人がたくさん来て、にぎわいづくりになるのですか。去年から聞いていると思うのですけれど、今まで徳島市との協議を、と言っていたけれど、していないではないですか。徳島市ときちんと協議をしていたら、こんな話にはなっていないと思いますよ。

実際、県都魅力度アップ推進ワーキンググループは、2回ですよ。それ以外でしていたのですか。せっかく作ったのに、なぜワーキンググループでしないのだろうと思います。確か、何回も言っていますよ。ここに居る人にも言ったことがあります。ワーキンググループを作った後で、県庁だけで勉強会をすとか、なぜそんなことするのか。しなくても一緒に来てまちづくりの勉強しませんかって言ったらいいのではと、なぜ県だけ突出してやるのですか。それでまちづくりって言ったら、いやそれは徳島市が、都市計画がうんぬん、言うのでしょうか。

何がしたいのか、全く分からないのです。ビジョンは出てこない。先行してホールは走っているだけ。鉄道高架ができないとなったら、ランドデザインとかが全部変わりますよ。何もかも変わりますよね。

アリーナもどうなるか分からないし、過去の施設やら、一体何がしたいのかなと。これに対してすばらしいって言える感性がすごいなと。僕が理解力がないだけなのかしれませんが、何も出てきていないのにすばらしいって言うのですから、正直、理解不能です。

胸を張って言っているけれど、論理的な説明も受けたことはありません。質問しても答えられないし、という感じなのですから、あなたたちは一体何がしたいのですか。

## 木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

まちづくりのランドデザインで県として何を指すのかという御質問でございます。

現在、県都である徳島市の駅前周辺は、官民の投資が停滞しており、まちづくりの観点から、非常に厳しい状況であると認識をしております。

まず、まちづくりにつきましては、先ほど岡委員からもありましたように、基礎自治体である徳島市、都市計画を持っております徳島市がまちづくりを進めるものと認識しております。県といたしましては、ランドデザインという形で、県都のまちづくりの方向性をお示しし、その内容について県市で理解を深めるため、県市ワーキンググループで議論をするということで、県市、同じ方向に向かって進んでおるものと認識をしております。

今後も、ワーキンググループや徳島市との協議の中で、グランドデザインの方向性、具体的な施術等の検討を進めてまいりたいと考えております。

岡委員

言っていることが分からない。

グランドデザインは方向性を示したでしょう。グランドデザインの方向性とは、何ですかそれは。2回しかしていないのに、ワーキンググループや徳島市との協議とは何ですか、ワーキンググループでしたらいいのでは、何のためにワーキンググループを作ったのですか、分科会みたいなのを作っているのではないのですか、それは、ワーキンググループの中で飽くまで話すべきことでしょう。

飽くまで都市計画は徳島市がやることです。それは当然です。どこの街もそうです。これがいいんだと言って、それを勝手に絵を描いて発表したのはあなた方でしょう。

前から言っていますけれど、それが越権行為だと言っているのです。だから先にワーキンググループできちんと話し合いをなさいと。土地のこともあるのだから、ホールのことにしたってきちんと1回整理をなさいと、ずっと、去年から言っていますよ。

協定も1回見直しましたが、あれで何を変更するのですか。変更点はほぼないと思います。変更して何か大きく変わるようなことは余りないです。

前も聞きましたけれど、総務委員会で、再三にわたって徳島市にホールを造る理由は協定ですって言っていますよね。嫌々するのだったらやめたらいいでしょう。基金のことは11月に出てくるのでしょうか、これだって額が出ました。何の根拠もないし、補償ではないと、まちづくりを加速するためにと言っておりますけれど、土台になるまちづくり自体がきちんと話し合いもできていないのに何の基金を作るのですか。誰が使える、県にいちいちお伺いを立てるのですか。

徳島市だけは特別なのですか、ずっと徳島市が発展することは、ほかの地域の利益になるって言っていますけれど、どういう利益が生まれるのですか。この間も聞きましたけれど、改めて聞きます。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

徳島市に対する支援につきまして、御質問を頂きました。

現在、徳島市を含めた本県全体の現状を見ますと、これまで長きにわたって魅力的なまちづくりが思うように進んでおらず、官民投資が停滞しております、先日の地価調査の結果でも、全国ワーストで……

岡委員

それは聞いたからいいです。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

そこで県都のまちづくりが急務であると認識をしております。

県として、県都である徳島市のまちづくりを進めることは、公共投資を呼び水とした民間投資を生み出して、本県最大の交通結節点になる徳島駅周辺において、回遊性の高い街

を実現し、県外からの誘客につなげて、インバウンドを含めた観光客、宿泊客をしっかりと取り込むことで、県下全域へと波及させる、県民全体の利益につながるものと認識し、徳島市のまちづくりを後押ししていきたいと考えております。

#### 岡委員

前にも聞いたのですが、だから、そこから海陽町や三好市にどうやって流していくのかと。これが成功したら徳島市はもうかるかもしれない。吉野川市にはどうやって回していくのですか。ほかの街が我々もまちづくりしたいと言ったら、基金を作ってあげるのですか。徳島市だけ特別扱いですか、教えてください。

#### 木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

ほかの市町村には、どうなるかということで御質問を頂きました。

この度の県の基金につきましては、新ホール整備に関する県市基本協定に基づきまして、ホールの整備推進に協力するため、これまで徳島市が担ってきた役割等を考慮するとともに、県都である徳島市のまちづくりを進めることで徳島市の魅力度向上や、にぎわいを創出することの効果が本県全体に波及して、県全体の利益につながると認識しており、徳島市のまちづくりを支援するというものでございます。

この基金を使って、本県へのにぎわいの創出に努めてまいりたいと考えております。

#### 岡委員

答えてもないし、要約すると徳島市は特別扱いですということでしょう、と思いますよ。徳島市に人さえ来れば、ほかの地域は発展というか、利益が落ちると、具体策を聞いたら答えない。

総務委員会でも聞きましたけれど、これから検討しますと言っていました。こんなずさんな計画をよく出してきたなと思いますし、こういうものでホールだけ先行して、自分が言ったからと、時期を明言したからと、そんなあほみたいなことに予算は付けられません。私は賛成できないし、よく考えてやっていかないと、本当に一から崩壊していきますよ。

やっと県市協調で少しずつでも前に進められるようになったのでしょうか、この一件でまた元以上に悪くなる可能性が非常に大きい、あなたのさっきの答弁でもそうです。

そのことをきちっともう一度、職員さんだけでも認識を強く持っていただきたいと要望して終わります。

#### 古川委員

私からも、またホールのことについて、一般質問でも今回聞いたのですが、余りきちんとした答弁はなかったかなと感じています。

その一般質問の中でも言いましたが、知事は去年の選挙の時に、公約で大ホールは1,500席、小ホールは無しにして、事業費を大幅に圧縮するということを打ち出された。

当時、県議会議員の選挙もしていたので、その時にメディアから議員にアンケートがあ

りました。徳島市内の議員だけだったかも知れないのですが、ホールの知事の打ち出しに対してどう考えるかというアンケートがあって、私は事業費の見直しはやぶさかでないけれど、とにかく早く作ることが大事だと回答したのです。

今でもその考えは基本的には変わっていないのですが、今回、実際に概略の案が出てきて、現計画194億円ということで200億円に近い事業です。その中で付帯工事費とか、設計費にも今回幾らぐらい出てくるか分かりませんが、現計画では8億円ぐらい掛かっているの、数億円、掛かるのでしょうか。こうなると200億円近い事業で、差を見ると三十数億円なのです。

圧縮したというけれど、圧縮というよりも小ホールをやめたり、大ホールを小さくしたりということで、これは圧縮かなという気もしますし、現計画でいくなら設計費もいらないし、先ほどから出ている基金のお金も、追加経費としてはいらさないわけです。

そういう中で、更に言うと新計画は概算工事費でしょう、先ほどから言ったように、これから設計していったら上がることもあっても、下がることはないです。

上がる可能性は低いとは思っている、そういう中で今の新計画案、更に言うと、一つ言い忘れたのは、先ほど庄野委員も言ったように、大きい額をかけて今ある地下駐車場を潰すのでしょうか。これも大きいと思うのです。そういうこともある。

そういうことも勘案していくと、この案はどうかなと、新計画案はどうかなと思っている県民は決して少なくないと思います。なので、もう1回県民に聞いてほしいと思うのです。

先ほど一日も早くという県民の声に応えたいみたいな答弁がありましたけれど、これだって現計画でしょう。埋蔵文化財が出てくるということを加味しても、現計画の方が早いです。

だって、どんな物が出てきて、どれくらい掛かるか、その出てくる可能性がどれだけあるのかという論理的な説明が一つもないではないですか。

論理的な議論を尽くしてきたみたいなことを言っている人がいたと言ったら、いやらしいですけど、そういうことを考えたら、ずっと言っていますが、この案は無理筋ですよ。

何が無理筋かって、かねてから言っていますが、首長の遠藤市長の同意は得られても、議会の同意は得られない、これは前々から言っている、私の見るところでは、徳島市議会のほとんどの人が反対してるのではないですか。この市議会の状況を変えない限り、なかなか前に進んでいかないと思うのですけれど、県はどうするのですか。市議会に対して、どういうふうな対処をしていくつもりですか。遠藤市長に任せきりですか。そのあたりを教えてください。

#### 木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

ホールを進めるために徳島市長に任せきりでないのかとの御質問でございます。

さきの知事と市長の会談では、市長から頂いておりました県の責任ある対応案を早急ということで、御要請に応えるべく県から今後の取組方針をお示しし、まちづくり基金を設置すること、また、その後、知事より20億円程度とするという旨をお伝えをしまして、市長からも大変有り難いという評価も頂いてきたところでございます。

また、両者で課題となっておりました新ホール整備に伴います県市基本協定等について

も、所要の改定を行うということで合意をいたしておりまして現在、徳島市においては、この取組方針に記載をしたとおり、市議会に対して説明を行っているところであります。

また、市議会の御理解には、地元住民の皆様の理解促進も欠かせないと考えておりまして、住民団体と市の意見交換会に県も出席いたしまして、まちづくりグランドデザインの考え方等について説明や住民の方からの意見も頂いたところでありまして、会の趣旨でありました地元住民の理解促進にもつながったものと認識しております。

市議会に対しては、先ほど申したとおり、徳島市長及び理事者において理解が得られるよう、説明が尽くされるものと認識をしておりまして、県としても、県の考え方を伝えるなど、しっかりと情報共有、情報交換を図って、引き続き徳島市に対し、協力を行ってまいりたいと考えております。

#### 古川委員

本当にそんな認識をしているのですか。

徳島市議会、市長及び市の執行部は、議会で説明したら、何とか分かってくれるだろうなみたいなふうに、今の状況を見て本当に考えているのですか。そういう感覚は信じられません。本当に、今の状況は無理です。

市長だって、市議会の意見をしっかり聞いて判断すると明言していますから、市議会の意見を無視して、改定なんかに判を押すことなんて僕はできないと思います。

今の協定を改定できなかったらどうするのですか。これでも予算だけはやっておこうかなみたいな、そのあたりは多分答えられないのだろうけれど、どうですか、協定の改定はできるのですか、できなくてもやるのですか。

#### 伊澤文化プロジェクト室長

ただいま古川委員より、県市協定改定いかんにより新ホール整備はどうなるかという御質問を頂きました。

現状、旧文化センター跡地における計画においては、基本計画を実現させるため、役割を明記した県市基本協定を締結しております。

先般、知事と徳島市長の会談において、県市協定の改定、見直しの方向に関して、考えをお示しして、合意したという認識であることは、先ほどの木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監からの説明にあったとおりです。

今後、藍場浜公園西エリアで整備する場合において、県市協定がうまくいかなかったらというお話でございましたが、県市協調で新ホールを整備するという方針に関して、合意できているという認識の上で、そこで整備するに当たっても、現計画地よりもそれぞれの役割の中で動きが出てくると思っております。

ただし、現地で県市協調のホールを整備するに当たっては、そのあたりを具体的に取りまとめて、県市基本協定の形でお示しすることで早期整備につなげていくと、それが一つの手法であると認識しております。

#### 古川委員

よく分からないけれど、とにかく突っ込んでいって玉砕したら仕方がないかなと受け止

めましたけれど、さっきも言ったように、合意しているといっても判を押さないと最終合意にならないので。

改定については、議決事項にはなってはいないと思いますけれど、こうやって徳島市長は明確に答えています。議会の意向は尊重するという趣旨のことを明言されているので、僕は難しいかなって思っていますし、県が一生懸命言っても、説明しても、なかなか市議会の半分以上の人が、過半数の人が賛成に回ってくれるという状況を作るのは、かなり困難だと思います。それは間違いない。何かアクションを起こしていかなければ、変わらないと思います。

更に言うと、ホールで駅周辺のにぎわいづくり、人の流れと言いますが、ホールでにぎわいづくりは非常に難しい、専門性の高い大手の民間が手掛けても難しい、私も過去にこういうことに関与したことがあるけれど、よほどでないと、純粹に文化施設として捉えるのが妥当です。

現にホールの周りで、ホールができたからと言って、いろんな店ができたりしているところが他県にもあります。今までの市のホールの周りだって、鳴門市の市のホールの周りだって、見たらわかるじゃないですか。ホールできちんと採算がとれるようにするのは、本当に難しいと思います。

先ほども言ったように疑問に思っている県民の方は少なくないと思いますので、このまま突き進んでいったら、結局、最終は県民の審判を仰がなければいけないのでしょうか。県民の審判を仰ぐということは、今から、この閉会日に予算ができたとしても、着工までは少なくとも2年は掛かります。そうしたら次の知事選まで半年ですよ。そしてまた審判を仰ぐということになるわけでしょう。

そういうことをするのがいいのか、どうなのかというのは、皆さんに聞いても、これは言われても困るという話になってくるのだらうと思うので、結局、この状況を変えられるのは執行機関の知事が原案を取り下げるか、また議決機関の議会が止めるか、どちらかしかないと思うのです。どちらの案が徳島にとっていいのかと、議員も本当にしっかりと考えないといけないと思うのです。

本当にしっかりと考えて結論を出さなかったら、また県民から何をしているのかという話になると思いますので、このあたりをしっかりとまた、議員の皆さんも、しっかりと考えてほしいなと思っております。

井下副委員長

私から、何点かお伺いをさせていただきます。

まず、SNSの話は出たのですが、明確にしておきたいのは、あの時点で反対の反対とかいう話ですけど、前回の総務委員会で聞きましたけれど、まず何に反対したのか。

私は反対した側になっているのかもしれませんが、何も反対するような案件がなかったように思います。もし緊急質問とか公聴会を開いてくれというのが反対に捉えられているのであれば、すごく残念だなと思いますし、そもそも、言い換えれば賛成するためにああいう看板が必要でないかなというふうに思って、依頼したので、そこを逃げられるとは非常に残念でしかないです。

ましてや抵抗勢力みたいな感じで言われたので、それで知事に、できたら今日来てくだ

さいと言ったのですけれど、それもかなわなかったということで、残念でございます。

そして、午前中の質疑の中で気になることがあったので、まずそちらからお伺いしたいのですけれど、合意について、岡委員の質問の中で、徳島市に確認して、合意が取れていることを確認したということで、徳島市の幹部ということだったんですけれど、確認したのはいつですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

合意の状況について、徳島市にいつ確認をしたのかということでございますが、この合意という件につきましては、この14日に知事と徳島市長が、県といたしましては何も変わったものはないというふうに考えております。

この認識が市長、市と同じ考えであるかという確認をしたのは直近でございます。

井下副委員長

そうではなくて、日付もすごく大事なので、日付で教えてください。

岸本委員長

小休します。（13時32分）

岸本委員長

再開します。（13時33分）

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

徳島市といつ確認をしたのかということで御質問を頂きました。

これまでも、徳島市とは確認をしてきたところでございますが、直近では9月27日に確認をいたしました。

井下副委員長

本当に驚きました。そうしたら9月17日に第一副市長の市として合意したということではございませんという答弁は、これはうそですか。どういうことですか。全然すれ違っていませんか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

9月17日の徳島市議会総務委員会における市の担当者の発言のことと承知をしておりますが、徳島市としては、この度の今後の取組方針については、県から示したものであり、市長として知事の提案に賛同したものとして、市側としては同意ということで合意でないという発言であったかと思えます。

県市それぞれの立場による表現の違いと認識をしておりますが、知事と市長の合意という事実は何ら違いはないと考えております。

井下副委員長

ものすごく大事なので、慎重にいきましょう。

まず、徳島市は、市として合意していないって言っていたわけです。その上で、県は組織として市と合意していると言っているのですよね。この時点で既に矛盾があります。

前回の総務委員会から五日ぐらいたっていますけれど、当然この矛盾を埋めるために、徳島市と話をされていますよね。

誰とどんな話をして、どういうふうに合意できているか、教えてください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

徳島市と確認した内容について御質問を頂きました。

徳島市とは、執行機関の長である徳島市長と徳島県知事が、今後の取組方針について合意したというふうに確認をいたしております。

この認識につきましては、先ほども申しましたが、市の幹部職員に確認したものでございます。直近といたしましては9月27日に確認をしたものでございます。

それと、先ほどの徳島市が合意をしていないということですが、徳島市の考え方としまして、先ほどと重複いたしますが、相手の提案に賛同するのが同意、お互いの意思が一致することを合意ということで、徳島市からすると提案に賛同しておりますので同意、提案した県からすると合意、言葉の違いであり、県と市が合意したという事実が変わりはないというふうに認識をしております。

井下副委員長

分かるような、分からないような説明なのですが、その徳島市の担当者は、何の権限があって合意したと言い切っているのですか。まず、そこを教えてください。徳島市の幹部の方は誰か分からないのですが、その人が言っている合意は何の合意ですか。幹部として、個人として、合意したのですか。それとも徳島市として合意したっていうことで間違いないのですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

徳島市長として合意をしているという件につきましては、徳島市の幹部が、市長の考え方として確認をし、県としてその幹部から市長の考えを確認して回答を得たものでございます。

井下副委員長

先日の総務委員会で、行政同士、組織同士で合意したって言っていますよね。今のだと難しいのですが、徳島市長が個人的に合意したものを確認したことに合意した、いや、よく分からないけれど、市長の個人的なものはどうでもいいです。まず、端的に聞きますけれど、県と市が組織として合意したのですよね。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

執行機関の長である徳島市長と徳島県知事が組織として合意したものと考えております。

井下副委員長

いつまで経っても分からないので、質問を変えます。

その合意を基に今回、県は進んでいっていると思うのです。仮に認識が違って、組織として合意できていなかった場合、この予算付けも含めて、この数日間で動いていると思うのですけれど、組織としてどうされますか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

合意できていなければという前提での御質問かと思いますが、まず県といたしましては、徳島市と合意したということで進めておるところでございます。

その上でお答えさせていただきますと、知事と市長との会談の中では、四つの項目、県市協調で新ホールを進めること、県市基本協定を見直すことほか、4点について、両者が直接会談をし、今後の取組方針について合意したということで、お互い確認もしたところでございます。先ほども申し上げましたが、正に県と市が同じ方向に向かって、まちづくりを進めるということで、スタートを切れたものと認識をしております。

このため、徳島市においては今、市議会の御理解を得るべく、説明が尽くされるものと認識をいたしております。県といたしましては、徳島市と連携しながら、徳島市にもしっかりと情報共有を図りながら、進めてまいりたいと考えております。

井下副委員長

5年ぐらい前だと思うのですけれど、先ほど言っていましたけれど、当時の遠藤市長と飯泉知事の間で、口約束して、言った、言わないとなって、いろいろともめて、そのあとのごたごたは多分、御承知のとおりだと思いますけれど、きちんとされたらどうですか。単純な話だと思いますけれど、県土整備部の人に聞きたいのですけれど、一般的な考え方として、仕事を発注する際に、今回のようなごたごたがある中で、徳島市と県の意識が違うという中で、考え方として、例えば今回のホールを発注する際に、現段階で発注できるものですか。僕らにしている今みたいなような説明を受注者に対してされるわけで、県の考え方でいいのですけれど、それをできますか。

伊澤文化プロジェクト室長

現状においての事業者の発注の考え方に関して、井下副委員長より御質問を頂いております。

新ホール整備という形でお答えさせていただきますが、今後、事業者発注に掛かる場合には、まず具体的な仕様を固めて、一定の事業の確実性を持って事業者に応募を掛けるという形が考えられます。

今後、早期整備プランの中で整備手法を固めていくという流れがございますので、現時点において発注方法まで明確にお答えできるものではありませんが、この場所で実現できる機能、規模、そしてコスト、そのあたりの予定した内容をしっかりお示しして、必要な予算の確保、見込み等も含めて、現実のものとして仕事を進めていくと、そうした上で、結果として事業者提案等を受けて事業者選定の結果、正式発注、事業が進むというふうな

想定でございます。

井下副委員長

県と徳島市の基本協定も何もない中で、例えば仕様書を作っていくという作業があると思うのですが、当然そこに至らない、普通に考えたら、この今の現段階で、それなのに予算を付けようとしているのですよ。ものすごい矛盾を感じます。もっとゆつくりされたらいいのではないかと単純に思います。

それと、もう1点伺います。合意という話をしていますけれど、今、県と徳島市の間で、正式に生きている合意されたものは何ですか。

どう考えても基本協定じゃないですか。基本協定の中に書いていますよ。もし分からないのだったら、整備の合意について書いていますので、読んでみてください。

その中で、県及び市は新ホールを協調して整備することに合意し、事業推進に当たっては互いに協力し、信義を重んじ、本協定に基づき、誠実に履行しなければならないと書いています。

恐らく、先ほど来、合意されているか、されていないか、飽くまでも前に進んでいくか、いかにただけの合意であって、今、生きている正式な組織の合意というのは、これだと思うのです。

それで言うと、まずこれから前に進めようと思ったら、この合意というところかというと、ここに書かれてある合意が、この中で、信義の文が書かれていますが、どう考えても、お互いに今、信頼関係が既に破綻しているのであれば、この協定自体、成り立っていないのではないですか。どういうふうに捉えておられますか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

現在、徳島市と交わしております基本協定を、現状において変更する必要があることから、これを変えるということで、さきの市長の会談で、この変更に関意をしたところでございます。

井下副委員長

そうしたら、例えば、合意の中の、信義を重んじ、というのをこれから変えていくのですか。そこは飛ばしていくのですか。県単独でもやれるような感じにしていけるのですか。

伊澤文化プロジェクト室長

井下副委員長より、協定の中身であります信義という部分に関して御質問いただきました。

この基本協定にかかわらず契約等を巻く際には、信義の部分は非常に重要なものだと思います。

当事者同士の約束ということでございますので、一番背骨になる部分と認識しております。

今後、この協定を触るに当たっても、この関係性を大事にしながら取りまとめていくものと認識しております。

井下副委員長

これは、うちの会派で作った、6月定例会の代表質問に使ったパネルですけど、一番上に徳島市との協議というのを6月に書かせてもらっていて、まず、ここがないと何も前に進めないだろうと言っておりますし、当然そうだと思います。

先日の総務委員会でもいろいろお伺いした際に、11月から様々説明したと、どういう説明をしたのかということをお伺いして、その際にも、いろいろ11月からこう言いました、ああ言いましたと言っているのです。11月からずっと説明はしているのだろうけれども、その背景にある徳島市との協議というか、徳島市との関係について、一切何も示されていないのです。

私、反対していると言われてはいますが、何回も言いますが、徳島市との話がまず大前提でないかと思うのです。そこのところだけ、どう考えていらっしゃるでしょうか。このまま前に進んで、徳島市との合意が取れている、取れていないと言っている中で、この予算を付けても本当に大丈夫なのかということを、聞いても一緒だろうけれど、教えてください。

伊澤文化プロジェクト室長

徳島市との関係に関して井下副委員長より御質問を頂きました。

まず今、我々の手元にあります現在の県市基本協定、今現地におきます新ホール整備そのものというのは止まっている状況でございますが、この基本協定に基づく部分、また同じ徳島市で事業を進めていたという部分につきまして、徳島市の担当課とは我々、事業上のやり取りというのは当たり前やるべきことは続けております。

例えば、市では今、現地におきまして、この基本協定に基づき、インフラ移設を進めております。性質上、途中で止めることが難しいこととなりますので、この進捗等も共有させていただいているということです。

ただ、藍場浜公園西エリアにおける部分というのは、知事、市長の会談での首長同士の合意というのも今月に入っているものでありますので、県としても候補地での事業の進め方等に関して、具体の各部分が動いたらどうなる、県市基本協定はどうなるという部分に関しては今後、方針が固まってからの作業が主になると推測するところです。

井下副委員長

財産の贈与契約の際にも、第7条に、県が義務を履行しないときは市が解除できると書いているのですが、このままいくと、そういった可能性も当然出てくるし、そういった場合に、これは可能性の話ですけど、現状復帰して返すということまで書いていますよね。

だからではないのですが、慎重にそのことをやっていかないと、大変なことになるという一言で終わってしまいますけれど、いけないとしか思えない理由です。単純にアクセルを踏むとか、ブレーキを踏むとかでなくて、今のままいくと、多分、前に進まないだろうなという不安の方が大きいなど。

総務委員会でも言いましたが、我々も一刻も早く県民の皆さんにそういう場を提供

するということは、やらないといけないというふうに思っておりますので、だからこそ慎重にやって、事前委員会でも聞きましたけれど、任期内の着工がベースにあるというふうな答弁も頂いたのですけれど、そういうところではなくて、県民の利益になるというか、すごいお金も掛かることですので、しっかりその辺はやらないといけないし、まだやれていない状況ですのでこうして言わせてもらっているのです。

先日、総務委員会で、聞こうと思ったら、担当課がいませんという話をしていたので、その時に聞いたかったことを最後になるかもしれないので、2、3お伺いしたいんです。J Vとの契約についてお伺いしたいのですが、この間の代表質問の中で、解約していくような方向で言いました。これも県市の協定に基づいたり、いろいろ考えていると、勝手にできないなだろうと思っております。

当然、解約するということはゼロになるので、今の段階でここに対して、どういうふうに、本当に解約をこの機会にしようと思っているのか。例えば11月にしようと思っているのか、その辺を教えてください。

#### 伊澤文化プロジェクト室長

井下副委員長より、現計画におきます、相手方共同企業体 J V との状況に関して御質問を頂いております。

現計画で、事業者選定を行った結果、優先交渉権者になった共同企業体とは、今後の仕事の進め方、設計施工一括発注という形にしておりますが、その中で、仕事の進め方として協定を巻いております。

現在、例えば今定例会が始まるに当たりまして、我々県として、共同企業体とは節目節目で連絡を取っている状況は続いておりますので、例えば、この定例会が始まる前に、また本会議が始まる前、我々県の状況と、今後の見込み、どういう議論になっていくあたりも当然事業者ですが、可能な限り御説明をしているところです。

先ほど、御質問のありました協定の解除につきましては、今後、藍場浜公園西エリアで事業を進めるとなった場合には、早期整備プランを固めていく、これは、事業の土台になります。この具体化に併せて J V とは協議をしていかなければならないと認識しております。

新たな計画がしっかり固まって走り出すというタイミングには今の J V との約束の取扱いをしっかりと決着をつける、これは解除という形を使っておりますが、ただその時期については、この9月定例会が終わって、仮に予算をお認めいただいたら、直ちに解除かというものではなくて、今後早期整備プランを取りまとめていく、一定の時間も掛かります。その方向性が見えた時に、J V に対しても、まず丁寧な説明を行う。そして、そこから協議を始める、この協議が何かと言いましたら、J V の基本協定の中に、今回のようなケースによる解除の規定というのはございません。ですので、県と事業者との協議によって解除に向けた話し合いを進めていくというものになります。

仮に中の規定によってそうなるしかないという結論になるわけではなくて、新しい計画の具体化に併せてしっかり話し合いをさせてもらって、最終、解除という形で合意を結びたいというところです。

その具体的な時期等につきましては、相手方のあることですし、ゴールをどこかに置い

て、そこに落としていくというよりは、まず丁寧な話し合い、協議で合意に結び付けていけたらと考えておるところです。

井下副委員長

もう1年間放置して、事業費も当時契約したものとは多分全然変わってくる、当然ながら、当たり前の話です。

その辺もあって、何回も言いますけれど、徳島市との関係の中で、解除についても市としっかり協議しないと当然、解除できないと思っています。

それが目的で土地を贈与してもらっているの、その辺も今、何も説明がないし、これを進めるイコール予算を付けるとか、解除するというのは、飽くまで藍場浜ありきのような気がするの、その辺はいいとは言い切れないと言いますか、いいものではないと思います。

それと、庄野委員からもお話があったのですが、今回、いつからか分からないのですけど、藍場浜になるにつれて埋蔵文化財が出てくるうんぬんの話がありまして、さっき答弁いただいていないように思うのですけど、僕、多分1年前にも、その間に掘ったらどうですかと言ったと思うのですけど、なぜ調査しなかったのですか。

伊澤文化プロジェクト室長

現計画におけます、埋蔵文化財調査に関する御質問を頂いております。

現計画地、旧文化センター跡地におきましては、令和3年から埋蔵文化財調査を順次進めてきておりますが、現時点においても未調査のエリアが残っております。

この調査に関して、掘ってみたら遺構が出てくる可能性があるという御説明をしておりますが、なぜ今、未調査であるのかという部分につきまして、先ほども御説明した部分であります、一つには現地ではインフラの移設、下水ですとか、通信ケーブルですとか、移設工事が継続しております。

この移設の目的としては、新ホールの予定地の中を通るインフラを外回しに替えるという作業をしております。

外回しに替えるという作業が全て終わって、中の古い管を撤去できる状況にならないと、その未調査部分に着手できないという状況がございます。

この未調査部分に着手できない理由としましては、まずインフラの管より深い部分に、想定される徳島橋の遺構があるという見込みがあります。

過去にも周辺を試掘して浅い所で確認できないかという作業をしたことがありますが、3m程度の深さではそこまで到達できず、未確認で終わっております。

ほかの埋蔵文化財につきましては、1mから2mという深さの所にありますので、インフラを撤去しないと調べられない状況にはないのですが、今の未調査部分に関しては、昔の川の底程度の深さまで到達する必要があるの、上に通っているインフラを撤去する必要があります。

徳島市に確認しましたところ、インフラ撤去の完了が現時点において6年度末ということになっております。

これらの状況から、着手が困難であったというところ です。

## 井下副委員長

前任期の時からですけれど、ずっとこの今の新ホールに向けて、ここにきてそういう重要な話は、当時なかったように思うのです。後々、どんどん見つかるものかどうか知りませんが、ものは言いようだという感じがしないではないと思っております。

例えば設計変更だってできるだろうし、大体の場所が分かっているのであれば、当然、そういうことも考えてやられていたのではないかなと思っております。いずれにせよ、今日の午前中、いろいろびっくりすることがあったので、質問が取っ散らかったのですけれど、現段階でさっきも言いましたけれど、合意の部分が本当に認識が一緒なのかどうかという確認を早く取っていただけませんか。何度も言いますけれど、県は取れていますと言っていますけれど、向こうは取れていないと言っているの、本当に予算を付けて前に向いていくのであれば、少なくともここは同じ認識ではないと絶対できないと思っております。

私、個人的にですが、令和元年の11月議会で、一般質問するよりも先に、当時の議題が徳島市新ホール建設予定地における県有地の扱いに関する決議について、賛成の討論をさせていただいたんですけれど、その時に私は、こんなことを言っているのです。

新ホールの整備を、市民、県民の芸術文化の創造拠点はもとより、鉄道高架事業にも深く関わる徳島駅周辺まちづくりに位置付けられたにぎわいをもたらす不可欠な事業であり、新ホールの位置が二転、三転するに当たっても、県がこれまで一貫して支援をしてきたことは明白な事実ですと言って、その上で、徳島市がスケジュールありきで議会を軽視し、強引に事業を進めてきたことが今回の混乱の根本的な原因であるというふうに言わせていただいているのですけれど、私個人的な意見で言うと、今、逆に県に聞きたい。

説明をきちんとして、どこの部分が今、ねじれているのかはっきりしていますので、そのところ、根本的な原因が解決しないことには、言った言わないとか、午前中に言っていました。余りにも取るに足らない話を、いつまでもこんなことをしても仕方がないので、きっちり判をつくような合意であれば、そういったほうにもっていかないといけないし、物事の順序も、既に巻かれているものっていうのが当然最優先なので、これをどうにかしてから次に行くっていうのだったら分かりますけれど、今のままでは多分到底、市議会も分かりません。あと二日か三日らしいのですけれど、普通に考えてもなかなか動かないと思います。

この委員会が最後なのかな、もしかしたら臨時の委員会をするかもしれませんが、いずれにせよ、今日の委員会を聞いていても、とても前向きに捉えられる内容ではないと思っておりますで、そのことだけ述べて、時間なので終わりたいと思います。以上です。

## 眞貝委員

今朝、庄野委員から、基本協定を巻いた時の話は出ていたと思うのです。我々県議1期目とかの人たちには、その当時のことが分からないようなお話をされていたと思うのです。

私も当然、その当時、県議会議員でございませんでしたし、そこで教えていただいたのですけれど、最初に県議会が話を通して、議題として出て決めてきたものなのか、基

本協定というか、当時の飯泉知事と内藤市長が、基本協定をどのような方向性で進めていて決めてきたものか、教えていただけますか。

伊澤文化プロジェクト室長

眞貝委員より、県市の協定に関する御質問でございました。

今あります県市の基本協定、令和3年の3月に知事と徳島市長で締結しております。

この基本協定の在り方につきましては、まず、ベースに令和2年の秋から、旧文化センター跡地におきます新ホール整備の議論をしてきて、それを具体的に取りまとめた整備基本計画というのがございます。

整備基本計画を取りまとめるに当たりましては、令和2年度の定例会におきまして、11月定例会、2月定例会で素案をお示しして、その後、説明して、パブリックコメントを反映させて、最終案をお示ししたと、議決事項ではございませんが、一応御意見を頂きながら反映させて閉会後に策定という流れを取りました。

策定した整備基本計画を実現するに当たり、整備基本計画の中でも県市協調で進めると書いておりますので、実際に、ではどのような役割分担をしてやっていくのかという点について、この県市基本協定で取りまとめて、同じく……

眞貝委員

もういいです。

その整備基本計画とか最初始めるに当たって、これは、前飯泉知事と前内藤市長が先に方向性を決めて合意をして、話を県と市に落としてきたということですか。

それから進めたということですか。

伊澤文化プロジェクト室長

お互いの役割、この県市協定の中身につきましては……

眞貝委員

中身ではなくて、最初の手始めのところ。

知事と市長は、先に合意をして、話合いをして決めて、進めていったのかどうかというお話なのです。

伊澤文化プロジェクト室長

県市基本協定の中身については、県側、徳島市側、我々担当部局同士の調整を踏まえて締結しております。

中身に関して、例えばインフラとか、設計施工をどちらがするという部分についての計画の中身を踏まえてお互い事務方同士が整備してやっていく部分でございます。ただし、最終締結については、その内容をまとめた上で……

眞貝委員

すみません、ちょっと待って。

僕が言っているのは、最初に方向性を決めたでしょう。県市でやると。市がやらないので、どうなったか知らないけれど、飯泉知事と内藤市長とはお話をしたと思うのです。それから、話が進んだのでしょう。中身はその後の話なのです。最初です。最初、知事と市長がお話をして決めて、それから両方がお話を、議論を進めたということでもいいんですね。

伊澤文化プロジェクト室長

ただいま、眞貝委員のおっしゃいました内容について、令和2年の秋に当時の内藤市長から飯泉知事に対して、新ホール整備の要望があって、それを受けて、現地において現計画の新ホール整備をスタートするということになりました。

具体については、その後、知事、市長の参画する検討会議において固めていったという内容でございます。

眞貝委員

その中で話ができまして、基本協定を巻いたと。協定書を巻く時は、議会として議題にのったのですか。

伊澤文化プロジェクト室長

協定書の締結に際しましては、議会の議決を経たものではございません。

内容的には、整備基本計画、これは各委員会に御報告の上、策定しておりますが、基本協定の内容に関しては、議会の議決を経たものではないということです。

眞貝委員

ということは、各委員会に付託をされて、了解を得て、それで基本協定は知事と市長とで、その当時に巻いたということでもいいのですね。分かりました。

現知事と現市長がこの間の9月14日のワーキンググループの中で、このお話をしたと、その中身がこの四つの項目ということでもいいのですね。

それを我々は、持って帰らせて、今、議論をさせていただいていると、徳島市は徳島市で持って帰って議論をしていただくと、そういう認識でよろしいでしょうか。

伊澤文化プロジェクト室長

現状につきましては、眞貝委員お話のとおり、9月14日に知事と市長との会談において、取組方針の合意があったという認識であります。

その上で、この委員会にもございました、藍場浜公園西エリアでの新ホール整備、また基本協定等の今後の扱いに関して御同意いただいているという状況でございます。

眞貝委員

最後に一言だけお願いしたいのは、二人がお話をして決めてきたと、合意だろうが同意だろうが、二人が決めてきたということで、それは再度、間違いありませんね。

伊澤文化プロジェクト室長

9月14日の会談での合意につきましては、先ほど公室からの御説明にもありましたとおり、取組方針に関して知事と市長が合意したという認識であります。

井下副委員長

一つだけ気になっていましたので。先ほど内町や周辺住民への説明の中で、木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監から丁寧にやっているかっていう、そんな話が出た中で、御理解を賜っているような話があったのですが、そのところ、もう1回教えてくださいませんか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

住民団体との協議の状況でございます。

まず、去る9月17日に県と徳島市に対して賛成、反対、それぞれの立場の住民団体の皆様から要望書が提出されました。また、その前にも内町町内会の協議会の皆様とも、県も立会いの下で説明会も開催をしております。この中で、それぞれ反対、賛成との様々な意見も頂いたところでございます。

また、同日には別の住民団体からも今度は賛成の立場で要望書の提出も頂いたところでございます。

また、9月5日に地元住民による説明会が開催された際にも、県から、その場に説明にまいりまして、具体的なまちづくりの進め方について説明をさせていただいたところでございます。

また、9月24日にも同様の説明会が開催されまして、こちらは徳島市から状況をお聞きしておる状況でございます。

井下副委員長

御理解いただいたというような発言がさっきあったような気がしたのですが、理解いただけていないのですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

9月5日の説明会の際に県から、私はじめ3名の者で具体的なグランドデザインの状況、それとホールの整備の今後の進め方の状況、それと鉄道高架、北側開発の進め方の状況を御説明したということで、県の説明内容については御理解をいただけたと認識しております。

井下副委員長

県の説明した内容については御理解を頂いたのですね。別に反対とか、賛成とか、そういう意識が変わったとか、そういうことではないということで、分かりました。

岸本委員長

ほかに、質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

委員各位にお諮りいたします。

ただいま、立川議員から発言の申出がありました。この発言を許可いたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、立川議員の発言を許可いたします。

なお、委員外議員の発言については、議員一人当たり1日につき答弁を含め、おおむね15分とする申合せがなされておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質疑をどうぞ。

立川議員

発言の許可を頂きまして、委員の皆さんに感謝申し上げます。

午前から話を聞いていまして、僕もまとめていたら、聞きたいことがまたばらばらになってきたので、端的に答えていってもらいたいと思います。

まず、木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監になるとありますが、9月17日の徳島市の総務委員会での企画政策部長さんの発言の中で、文化ホールの場所を、車両基地の移転に関係なく藍場浜に動かしたいんだという発言があったと、それを基に、車両基地の移転の可否に関係なく、いつから藍場浜西エリアに考えたいと思っていたのか教えてくださいという質問をしたのですけれど、お答えが曖昧だったので、いつの時点で車両基地の可否関係なく、藍場浜西エリアに整備したいと考えたのか、それを教えてください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

御質問は、車両基地の移設の可否にかかわらず、新ホールを藍場浜公園にとの御質問でございますが、私は午前中にも御説明を申し上げましたが、まず11月の時点では車両基地を、メリットを踏まえ旧文化センター跡地へ移転する、このためにはホールの建設地を変更する必要がある、同時に建設場所は藍場浜公園西エリアの方がまちづくり等の観点で優位性があるので候補地とした旨を申し上げました。

その上で、11月議会におきまして、議員から、この車両基地の移転が完了するまで待つというのではなく、それぞれ最善、最速での実現を目指すべきとの御指摘を頂きまして、この際には、知事からホールの工事着工の目安となります、今任期中、またおおむね3年間という方針もお伝えいたしたところでございます。

また翌2月議会でも、このホールの調査については、6月定例会に具体を示すという旨も申し上げ、その結果、6月の議会におきまして調査結果を御報告し、11月の時に検討しておりました優位性に加えまして、詳細は省略いたしますが、この場所の大きなメリットが確認できたことから、昨年11月に御説明をし、その後、今申した経緯の下で、現在新ホールの整備地は藍場浜公園西エリアが最適地と考えるに至った経緯を申し上げたところでございます。

総務委員会での説明と同じ内容でございます。

立川議員

よく分らないです。

最初からそうだったのか。そうでないかを聞いているので、最初の時点で車両基地の移転の可不可関係なく、藍場浜案だったのかということを聞いているのです。

でもその後で、メリットが分かったとか、優位性がとか出てくるのですけれど、その最初です。グランドデザインをした時点で可不可に関係なかったんですか。車両基地の移転の可不可関係がなかったのか。時間がないので、端的にお願いします。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

11月時点では、可不可ということではなくて、車両基地を移設することから、このためホールの建設地を変更するという旨を申し上げたところでございます。

立川議員

11月の時点では可不可ではなかったと、どういうことですか、今のとおりでいいので、もう1回お答えください。

岸本委員長

小休をお願いします。（14時16分）

岸本委員長

再開します。（14時17分）

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

11月の時点では、繰り返しになるのですが、車両基地の移設が可不可ということではなくて、車両基地を旧文化センター跡地へ移転するよう検討をしたい旨を申し上げ、そのためにはホールの建設地を変更する必要がある、それと同時に、この藍場浜の方が優位であるということで申し上げて、前提といたしましては車両基地が移設する、そのため変更するという説明を11月にしたものでございます。すみません。答えになっていますでしょうか。

立川議員

その前提が我々は玉突きだと思っていまして、当初の時点では、可不可に関係なく整備したいという考えではなかったということなので、それはそれで分かりました。

そうしたら、我々はずっとホールの議論をしてきていて、飯泉知事のときの現ホールがあって、後藤田知事になって、選挙公約で費用を半分にします、この公約に場所の移転はなかった。でも新しいホールが出てくるのだけれども、グランドデザインという形とともに藍場浜案のホールが出てきた。

そうしたら、ホールについての議論で、現行案と藍場浜のホールを二つを比べたときに、議論した結果、お金が高いけれど、今の現行案の方がいいよねと、もし、そうなったら、グランドデザインは変更されるですか。教えてください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

11月にホールの候補地として、藍場浜公園を検討した際には、徳島駅に近いという点、駅前商業施設とスムーズな動線を確保できるという点、また水都徳島のランドマーク、川沿いのメリットが新たなにぎわいにつながるという点を考慮して、候補地として選定をいたしまして、その後、6月の調査で、これは観光スポーツ文化部になりますが、それぞれ優位性に加えて、席数、活用、ランニングコストとスケジュール面でメリットが確認できたということで、進めておるところでございます。いずれも期待していたものを確認したところでございます。

立川議員

聞きたいことに、お答えしてくれていないと思いますけれど、時間がないので次に行きます。

基金の件をお聞きします。

このお金、20億円は補償的な性質のものではないと言われていたと思うのですが、それは間違いはないですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

この基金については、何らかの賠償金や補填的な性格のものではなく、今後徳島市が行う事業に充てられるものとして設置されるよう想定をしております。

立川議員

補償的なものではないと、そうしたら今度、県都のまちづくりに関する取組方針、合意したと言われているところの2番目に、これまで徳島市が担ってきた役割を考慮し、基金を設置するとなっているのですが、徳島市が担ってきた役割、この役割とは何でしょうか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

県市基本協定におきましては、文化センター跡地において、県立ホールを整備するための役割分担として、それぞれ規定し、これに基づいて県がホール整備を、市は周辺インフラの整備を担ってきたところで、この度、藍場浜公園へ場所を変更となった場合であっても、これまで徳島市が文化センター跡地で行ってきた事業は、今後の県都のまちづくり実現の礎になったものということで、こうしたことから、徳島市が行ってきた役割を考慮して、県市協調の下で基金を作るという考えに至ったところでございます。

立川議員

それが役割なのでしょうけれど、この役割という言葉は、今まで徳島市が掛けて企た費用をという意味で捉えていいのでしょうか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

さきの県市ワーキンググループで県から、これまで徳島市において支出している経費が

あること、新ホール前提に土地を譲与いただいている経緯を認識して、県として責任ある対応案を検討すると回答しておりまして、その後、今回お示しした基金につきましては、新ホール整備に係る基本協定に基づいて、県立ホールの整備促進のために、これまでに徳島市が担ってきたこうした役割を考慮して、県として基金を作ること、規模は20億円が相当と考えて、積み上げでなく、規模としてお示しをしたものでございます。

立川議員

要は、徳島市が掛けてきた日用も含めてということですよ。この基金の金額を算定するに当たっては、徳島市が役割でされてきて、いろいろお金が掛かって、15億円ぐらい掛かってきたとか、それは考慮されているということですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

こうした役割を考慮した上で、県として考えた基金でございます。

立川議員

分かりました。

そうしたら、これは飽くまで補償的なものではないと、徳島市が掛けたものに対しての補償的なものではないとなると、15億円を補償してくれと言って、今度また違う議論が出てきて、損害賠償的な話が出てきたときには、どのように対応されるおつもりでしょうか。

伊澤文化プロジェクト室長

立川議員より、県市基本協定の役割に基づく補償等に関する御質問を頂きました。

先ほど知事戦略公室から基金の考え方に関する御説明がありましたが、そのほか補償賠償等の責任があるかというお話でございました。

今の県市基本協定は、県としての役割が記載されてございますが、この中には直接の補償賠償に関する規定はないところです。ただ、その上で、何らかの形でそのようなお話があった場合というのは、当然県としてしっかりお話を聞きながら整理していくと考えております。

これは補償賠償があるものという前提ではなく、万が一そのようなお話があった場合にも、門前払いという形ではなくて、お話は聞くという姿勢で対応してまいります。

立川議員

基金と賠償というか、補償的なものは全く別だという認識を今、持たれているということとよろしいですね。

伊澤文化プロジェクト室長

立川議員より、補償賠償に関する御質問でございます。

基金とは別に補償賠償があるという認識というのは、まずは、これまでの徳島市の役割に対する責任ある対応としての基金というものがございます。

このほかにも、先ほど別のお話もありましたが、こちら無償譲渡の契約、ここにも、この契約を解除する場合には土地の返還、土地に何らかの影響を与えている場合は、その分も補填するというような条文もございます。そのあたりも踏まえて今後、進めてまいるといことです。

立川議員

分かりました。分かっていないのですが、御説明ありがとうございますという意味です。

最後、今日、合意の部分で議論がありましたけれど、時間がないので、合意と同意という言葉が出てきていますけれど、県としては、この合意と同意というのは、同じ意味なのか、同じ意味だと解釈されているのか、教えてください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

繰り返しになるのですが、県といたしましては、執行機関の長の徳島市長と知事が合意をしたものということで認識をしております。

御質問の件は、9月17日の徳島市の発言の件かと思いますが、県から今回、取組方針を示したので、市長として知事の提案に賛同したものとして、同意と表現されていることで、県市それぞれの立場による表現の違いということで、知事と市長の合意ということに違いはないと考えております。

立川議員

表現の違いなのかもしれませんが、裁判になったときに、合意と同意とは、法律的に変わってきますか。

僕も浅はかですけど、有斐閣法律用語辞典の中では、同意については、次のような説明がある、他人の行為に賛成の意思を表示すること。これに対して合意の説明は、当事者の全員の意思が一致、合致することであると。法廷とかになったときに、これは合意なのか、同意なのかというのを、はっきりしておかないといけないと思うのですが、そのあたり教えてください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

今回、資料でお示ししております取組方針について、この中身について、県と市で認識が一致しておるということで、違いはないものと考えております。

岸本委員長

委員各位にお諮りいたします。

ただいま、仁木議員から発言の申出がありました。この発言を許可いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、仁木議員の発言を許可いたします。

質疑をどうぞ。

仁木議員

発言の機会を頂きました。委員の皆さん、ありがとうございます。

質問させていただきますが、合意、同意、はっきり言って、そんな言い回しはどうでもいいのです。でも、一つだけ、そうやっておっしゃるんだったら、私も言いたいことがあります。

それは何かと言ったら、合意というのは、合併問題でいうと対等合併だと思うのです。同意とは、さっきの説明だったら、言われてからそれに意見一致しましたよと言って、はっきり言って吸収合併みたいな感じではないですか。

それだったら、言われて意見一致しましたよという話なので、それは認めているのでしょう。立場の違いで、徳島市はそういう立場、言われた側だから、それに賛同したということは、さっき、同意だっておっしゃいましたよね。さっき、言ったのですよ。おっしゃったのですよね。さっき答弁でおっしゃったのですよ。いやいや、まだ答弁しなくていいです、まとめて答弁してください。

それだったら、合意という認識っていうのは、はっきり言うておかしいですよ。向こうは言われたほうで、それで飲みましたと。それで一致しましたと。だから同意でおかしくないですと、さっき言ったんですよ。徳島市側からしたらと。そうでしょう、合意というのは、両方ともが一致すると。対等合併でしょう。同じ話じゃないですか。

それだったら、表現はきちんとするべきで、さっき、そうおっしゃったから、合意をしたのではなく、同意をさせたということが適切なのではないのですか。徳島市に同意をさせたんでしょ。そうではないですか。

言っていることがおかしいですよ。だって認識からしたら、さっきの議論の説明だったら、そこをきちんとはっきり、同意をさせたんじゃないんですか。合意という認識。だって徳島市は持ちかけられてから、それに一致したのでしょうか。それはさっきおっしゃっていたではないですか。そこら辺どうなんですか。端的にどうぞ。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

まずは、合意につきましては、9月17日の徳島市の発言のことでございます。

県と市の認識でございますが、午前中にも答弁いたしましたとおり、執行機関の長である徳島市長と徳島県知事が、県都のまちづくりに関する今後の取組方針について、合意をしたものと認識をしております、この点は徳島市の幹部職員も確認した上で、発言したものでございます。

仁木議員

こうやって議論していても、我々の認識と、行政側の認識が、理解ができないような説明で、はっきり言って、ずっときているでしょう。

そんな中で、玉突きでないと、さっきも議論がありましたけれど、朝、言っていたことと、さっき言ったことが違っていませんか。

いつの時点で玉突きでなくなったんですかという午前中の議論の時は、11月の議論を踏まえた上で、その中で、玉突きでない、単独でもという話で、さっきされていたのではな

いですか。

さっきここで、立川議員が質問したら、それは11月の時点から単独でやるということが決まっていたと、最初からという話でしていませんでしたか。そこら辺どんな感じなのですか。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

私が先ほど説明いたしましたのは、11月議会で県議会議員から、車両基地の移転が完了するまで待つというのではなく、最善最速を目指すべきということで御指摘を頂きまして、それ以降、様々な議論を経て、最後6月には優位性、また大きなメリットも確認ができましたので、現在、ホールにつきましては、藍場浜西エリアが最適地であると考えてるに至った経緯を御説明したものでございます。

仁木議員

11月に議員から言われたと言ったけれど、我々議員38人おるわけで、そうでしょう。一議員が言って、そうやって変わったんだったら、その時に変わりましたと、なぜ言わないのですか。

申し訳ないけれど、それは11月の話ですね。11月に言われて、11月の時に、玉突きでないっていう考え方に変わったのでしょうか。最初に言ったよね。議員に言われて、11月に変わったのですよね。そうですね。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

11月に議員からの御指摘を頂き、2月議会での議論を踏まえ、6月にホールの調査結果が出たことを踏まえ、ホールは藍場浜西エリアが最適地であると考えてるに至った経緯として御説明をしたところでございます。

県といたしましては、この11月に説明して以降、11月の議員からの指摘、また6月に至るまで、現在におきましても、ホールの最適地については、考え方は変わっておりません。

仁木議員

今の答弁で11月の指摘以降、県の認識は変わっていないという話ですね。今そうやって言いましたね、11月の指摘以降、県の認識はこれまで変わっていないって言いましたよね。言いましたね。11月の指摘以降、変わっていないと言いましたよね。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

11月に御指摘を頂いて、県といたしましては、一貫した方針で、藍場浜公園西エリアが最適地ということで考えております。

仁木議員

11月の指摘から変わっているという認識でいいですね。

これは大事なので言いますが、なぜそうやって言うか、言っておきます。

大切な議論をしているわけなんですよ。だってあの時、予算を出してきたでしょう。駅の開発に伴うものと藍場浜のものと調査予算を出してきましたよね。出してきたではないですか。私は最終、賛成しましたよ。

それだったら、虚偽答弁で賛成させているわけですよ。そうじゃないのですか。虚偽の説明を用いて、予算を賛成させて、我々に対して、どこでどう変わったかという説明がないってどういうことだという話ですよ。

本当に議会軽視も甚だしい。それでまた、こうやって訳の分からないようにして、それでまた通させるのですか。はっきり言って、我々だって県民になぜ賛成したか、反対したか、説明しなければいけないので、こうして聞いているわけですよ。

本当に議事録の重みを分かっていますか。国会でいったら法律の審査をするときに、ここに書ききれないものは議事録の中での法解釈、答弁したものが法的根拠で有効になるから、議会での議事録というのは、それだけ大事な話ですよ。

どういうことなのですか。変わったのだったら、変わった時点で、きちんとって説明しなかったら、その中で、根拠で我々議論の中で、賛成、反対していつているわけではないですか。他の我々の会派だって反対しました。だけど私は賛成した。賛成したから言っているわけです。そこら辺しっかりと、明確に答弁しなかったらおかしい話ですよ。

#### 木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

県といたしましては、きちんと経緯を説明する必要があると考えまして、午前中の答弁のとおり、11月の議会で県として申し上げた内容、具体的な内容を申し上げました。

その後、11月議会で頂いた御意見、県として判断した経緯をすべて説明したと考えております。

#### 仁木議員

もうまとめます。時間はあるので、もっと言いたいけれど、もう言わない。もう本当に情けない。

11月にそうやって変わって、きちんと答弁しましたか。きちんと私に説明しましたか。議員に説明しましたか。この中で予算を出してきて賛成させたわけです。分かりますか。

この中で皆さん、11月の議会の時に玉突きでありませんという認識の人はいましたか。それか、いたかどうか、それとも玉突きですと説明した人はこの中でおりませんか。

玉突きという表現がなかったとしても駅北の開発に伴いと、ずっと言ってきたのではないですか。それを一つも言っていないという人、この中にいますか。11月から6月までのこの間までで、伴いという言葉を使っていない人がいるのかどうか、言ってください。

#### 木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監

車両基地の移設の関係では、旧文化センター跡地へ移転するよう検討する、そのためには、新ホールの建設地を変更するということで、知事の所信で申し上げております。

#### 仁木議員

伴いって言っているでしょう。この中でも伴いって言ってるでしょう。

伊澤文化プロジェクト室長、言ったことないですか、あなたも言ったことないですか、皆さん。部長も言ったことないですか。伴いって言ったことあるかないか言ってください。

木野内知事戦略公室戦略プロジェクト統括監  
委員長……

仁木議員  
あなたに聞いていない。

伊澤文化プロジェクト室長

11月、この県と市のグランドデザインを公表させていただいた際には、新ホールの建設地を変更する理由としまして、鉄道高架に着手するための車両基地の旧文化センター跡地への移転、それに伴ってと説明しています。

仁木議員

伴いと言っているのですよ。皆さんの中で、担当の人も含めて、1回も言っていないことはないと思いますよ。知事戦略公室は4月からできているので言っていないかもしれませんけれど。

そういう中で、いろいろと変わってから、我々を欺くような、まやかしていくことは本当にやめてほしい。そのままで予算を出してきて、我々は信用できない。それだったら11月議会の時からこうでしたと。それである時、説明が足りずに賛成させた議員に申し訳ありませんとわびてきてくださいよ。どうしてくれるのですか。

これをなぜ言うかという、あの時の公約では移転はなかった。安くする、早くするしかなかったんで、うちの東条議員だって、うちの会派だって、その内容を賛成していたわけですよ。

花びらみたいなのは要らない、安くしてくれるのだったらそれでいい。あそこの所で安くする方法を、設計を変えてすると我々は思っていた。ただし、駅北開発も知事の公約だったので、それを否定することはないと我々は思った。だからこそ、藍場浜への移転については、それは調査だったらいいでしょうということで、会派の中で意見は割れたけれど、我々は賛成に回ったわけです。はっきり言って、玉突きでなかったら賛成してないんです。

それだったら私の賛成したことを本当に返してほしい。本当にわびてください。それだけは言っておきますから。本当に議会軽視も甚だしいってこういうことですよ。

我々は県民を代表して立っている。県民9,000人を代表して。分かりますか、きちんとそこら辺を考えてくださいよ。

今回、予算を出してくるのだったら、それに当たっても、経済委員会でもしかり、そこら辺をきちんと思っていてください。部長そうですよ。

（「議会軽視、あなたが言っているのは、議会で決まった発言でないだろう。それは議

員軽視でないのか。」という者あり）

そうです、議員軽視です。訂正いたします。議員軽視です。

ですから、きちんと理解した上で、説明してほしいと、そのことを申し上げておきます。

岸本委員長

委員各位にお諮りいたします。

ただいま、北島議員から発言の申出がありました。この発言を許可いたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

それでは、北島議員の発言を許可いたします。

質疑をどうぞ。

北島議員

質疑のお時間を頂きまして、ありがとうございます。

短い時間ですので、端的に質問させていただきますけれども、先ほどの仁木議員からの質疑というか、その考え方に、私は100%同意します。同じ考えでございます。

先日の総務委員会でも、知事戦略公室に対して申し上げましたけれども、これまでの経緯をずっとひも解いていきますと、全てにおいて、一つのキーワードが説明不足であります。プラス説明がころころ変わるということです。これが今、この委員会の中で議論になっておりますし、議会の中でも、本会議でも、我々は緊急質問という形で、そこをどういうふうに解釈していいのかということで、緊急質問の機会を得ようと思いました。

また、内町のまちづくり協議会の中におきましても、賛成、反対、両方の意見がある。議会も、地元も、そして徳島市議会も、皆さんが全く理解をできていない、そういった状況で今、ホールの予算を出そうとしているのです。

我々は、誰に対して今この議論をしてるのかというのが、ここが非常に疑問に思うところでございます。

まず、今、市議会で、まだ明日、連合審査会ですかね、いろいろ議論があると思いますけれども、そういった中で、今の市議会が今の状態のままでも、このホールの予算の提出を行うおつもりでしょうか。お答えください。

伊澤文化プロジェクト室長

現状において予算案の提案を行うかというところでございます。

新ホール整備について、一日も早い完成を望む声というのがございます。その声を我々は誠実に受け止めつつ、また先般の知事と市長との会談の結果、これも踏まえまして、早期整備に向けたスタートを切るという形で、そのためにも今定例会の最終日において、必要になる予算を提案させていただきたいと考えております。

北島議員

分かりました。出すのであれば、ホールはそれでいいでしょう。

では、先ほどから言っている玉突きの問題がありますけれども、玉突きでなかったとしても、駅の北口開発であったり、高架であったり基地の移転についても、まだまだ地元の同意、またJRとの話合い、いろいろありますよね。これをどうするおつもりなんですか。

これがもし、ホールであれば当然、地元も市もありますけれども、特に基地であったり高架である場合はJRという民間企業が関わってくる。そういった中で、本当にできるか、できないか、多額なお金が掛かるというものでございます。

これができなくなる可能性は、今、考えられておりますか。

桂野まちづくり室長

ただいま、北島委員外議員より、鉄道高架の件につきまして御質問を頂いております。

鉄道高架につきましては、現在、費用対効果や概算事業費を算出しております。それにつきまして、JRとも技術的な協議も進めながら、やっているところでございます。

まずは11月に向けて事業実現の可能性というところを、費用対効果についてお示したいと考えております。

それに向けて現在、急ぎ、まとめているところでございます。

北島議員

B/Cが費用対効果1を超えたらいいんでしょうけれど、超えなければ元も子もないですよ。となれば、玉突きとか言う以前に、まちづくりの構想自体が破綻する可能性も十分あるのですよね。

JRとも高架の話、車両基地の移転の話を10年前に話をしていますよね。あの時に費用の面、維持メンテナンス、そういった面がJRにとってマイナス要素であるというような協議をしたと聞いております。

今、当時の金額より1.5倍の費用が掛かるように言われております。この状況でJRがそういった費用を負担できるのかということを考えると、非常に難しいように思うのです。

となれば、まちづくり構想全体ができなくなるのです。そもそもホールを藍場浜に持つていくということをやるべきことでしょうか。急ぐべきでしょうかという話なのです。もう少し待ったらどうですか。高架のB/Cであったり、基地の移転が本当にできるかどうか、技術的な面、また費用的な面、駅の北口の開発が本当にできるのか、玉突きでなくても、ホールもそのまちづくり構想の一つなんでしょう。だったら、その全体ができなければ意味がないですよ。

だから、それぞれの事業が実現可能かどうかをきちんと検証して、ではできますとなった場合でスタートじゃないですか。

それでも、ホールをするというのは、やはり一日も早くというところなんですよ。それはみんな一緒です。我々も一緒です。だけど、今ですか。

徳島市がこういう状況、市議会がああいう状況、地域住民の皆さんの意見を聞いた時に、この状況で進めていいのか非常に疑問に思う。

ちょっといやらしい考えかも分かりませんが、我々は何に捉われているのでしょ

う。知事が言った任期中に着工するという、そこに縛られていませんか。

当然、知事は徳島県の将来であったり、ビジョンであったり、向かうべき方向を示す、これは知事の仕事であり、私はこのまちづくりの構想に対しては知事の方針といたしまして、非常に大きく評価をします。

だけど問題なのは進め方なのです。まちづくり全体をやるためには、全てが本当にできますね。できない場合はこうしましょう、第2案。またここができなかったらこうしましょう、第3案。そこまで考えてやるべきではないでしょうか。

その知事の方針、任期内に着工という、そこに縛られた議論でずっといっているような、私は気がします。

最後、質疑というか、お答えはもう分かっていますので、一日も早くとか十分、今まで聞きました。分かっております。ですけれども、進め方を考えましょう。待ちましょう。

我々は、県議会、さっきも仁木議員が言いましたけれども、県民の代表であって、県民の皆様のためにと、徳島県がよくなるために、そういった面で思いを持って、今こうやって我々も話しておりますし、議会活動をしております。

理事者の皆さんも一緒じゃないですか。県民の皆様のために、徳島県のために、今までやってこられた、これからもやろうとしているのです。当然、その時のトップ、知事の方針というのは大事です。

けれども、それに捉われて、本当に重要な県民の、いわゆる税金、一生懸命働いたお金を、そんなに焦って使っていいのかと、私は思います。

知事に対して言うべきことを言っていたきたい、緊急質問で私が言いたかったのは、6月議会でいろいろと話をしました、こうやって議論もしました。

そういった中で、6月の閉会日に藍場浜西でやると言った、その短い時間でどういう協議を庁内でされたのかということを、我々の代表の井川会長が聞きました。

しかし、答弁はいつもどおりの、県都のビジョンであるとか、まちづくりであるとか、そういった答弁に終始をされました。是非とも、こういった我々の意見、最終的には少数かも知れません。

けれども、こういうふうに議論をしていることは、庁内できっちりと協議をしていただいて、知事には言うべきことを言っていたきたい。

それが何よりも県民のためだと私は思っておりますし、そういった意味で我々はここに座っておりますので、そこを強く要望して質問を終わります。

岸本委員長

以上で、質疑を終わります。

これをもって、まちづくり・魅力向上対策特別委員会を閉会いたします。（14時51分）